

## 5-2-5 植物

### 施工時・供用時

#### 1. 調査

##### (1) 調査すべき情報

以下に示す項目とした。

- ① 植物相の状況
- ② 植生の状況
- ③ 重要な種の状況
- ④ 重要な群落の状況
- ⑤ 植生自然度の状況
- ⑥ 指定・規制の状況

##### (2) 調査地域・地点

###### ① 既存資料調査

調査地域は対象事業実施区域及びその周辺とした。

###### ② 現地調査

調査地域は、図 5-2-5-1 に示す対象事業実施区域及び周辺区域 200m の範囲とした。調査範囲は 4 地区に区分し、対象事業実施区域を A 地区、B 地区に、周辺区域を C 地区、D 地区とした。また、植生の調査地点は図 5-2-5-2 に示すとおり 42 地点とした。

##### (3) 調査時期

###### ① 既存資料調査

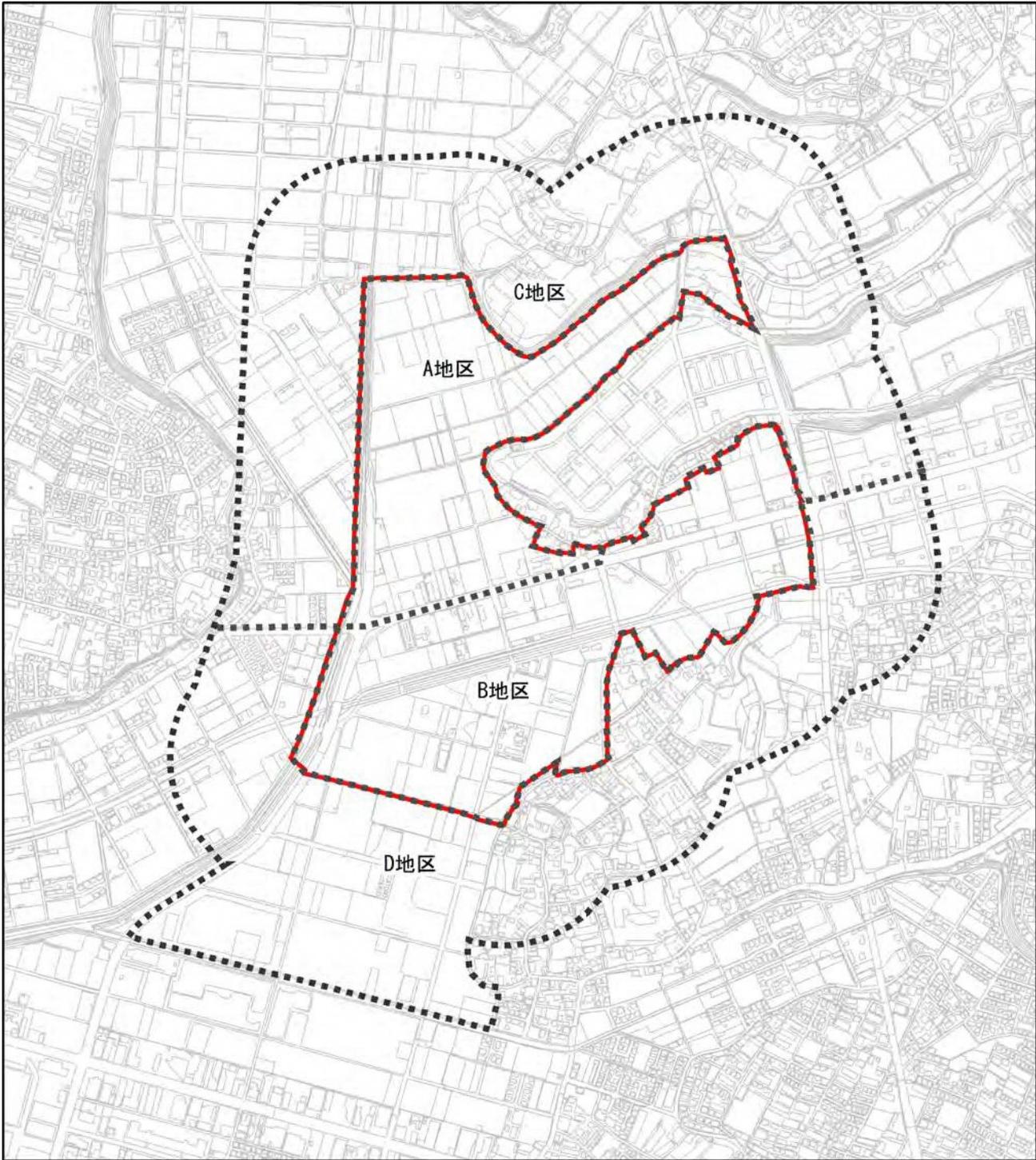
既存資料調査の対象とする資料は、入手可能な最新の情報とした。

###### ② 現地調査

現地調査時期を表 5-2-5-1 に示す。調査時期は植物の生育状況を適切に把握できる時期を考慮して設定した。

表 5-2-5-1 現地調査時期

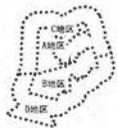
調査項目	調査時期	
	植物相	早春季
	春季	令和元年 5 月 13 日～5 月 15 日
	夏季	令和元年 7 月 16 日～7 月 19 日
	秋季	令和元年 9 月 24 日～9 月 27 日
植生（植物群落）	秋季	令和元年 10 月 1 日～10 月 3 日



凡例



: 対象事業実施区域



: 調査地域



1:10,000

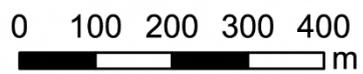
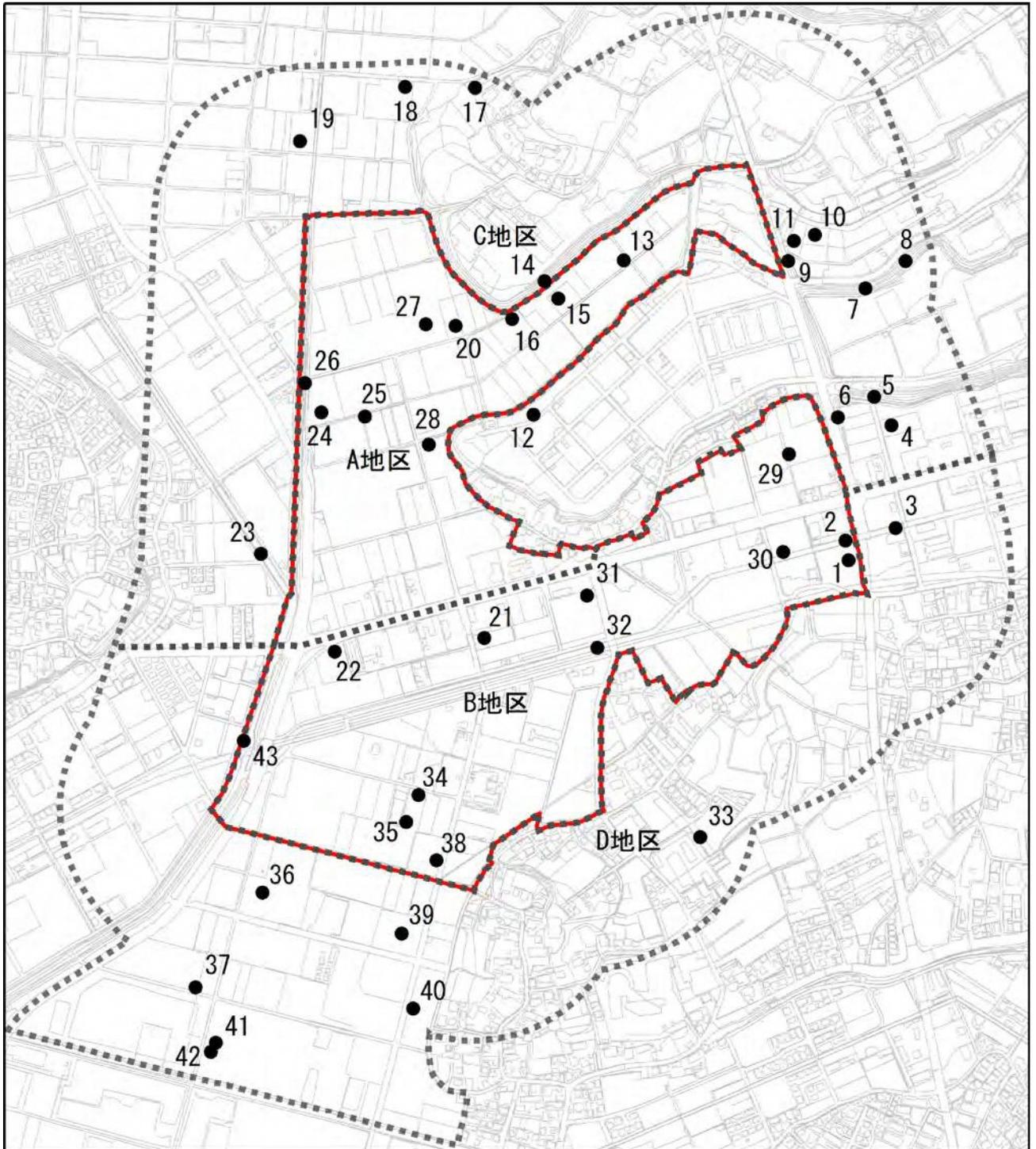


図 5-2-5-1 調査地域 (植物)

※この図は船橋市提供の「平成 28 年船橋市都市計画基礎調査図」を加工して作成した。



凡例



: 対象事業実施区域



: 調査地域

● 植生調査地点



1:8,000



図 5-2-5-2 植生調査地点

※この図は船橋市提供の「平成 28 年船橋市都市計画基礎調査図」を加工して作成した。

#### (4) 調査の基本的な手法

##### ① 既存資料調査

植物に関する既存資料調査の基本的な手法を表 5-2-5-2 に示す。

表 5-2-5-2 植物に関する既存資料調査における基本的な手法

調査すべき情報	調査の基本的な手法
植物相の状況	「平成 25・26 年 船橋市自然環境調査報告書」（平成 27 年 3 月、船橋市）の現地調査によって確認された種を対象とした。
植生の状況	国や県で作成している資料、博物館・研究団体等で刊行している学術文献、定期刊行物、公益法人で刊行している資料を対象とした。
重要な種及び植生の分布・生育の状況	<p><b>【植物相】</b> 植物相の既存資料調査結果を対象に、「3-1-12 植物の生育及び植生の状況」（P. 65～P. 67）に示す重要な種の選定基準に基づき選定した。</p> <p><b>【植生】</b> 調査地域における重要な群落として、環境省の特定植物群落及び国及び千葉県作成のレッドデータブック（レッドリスト）に基づき選定した。</p>
指定・規制の状況の把握	対象地域の指定・規制に関する既存資料を収集し、指定・規制等に係る関連法令についてまとめた。

##### ② 現地調査

植物に関する現地調査の基本的な手法を表 5-2-5-3 に示す。

表 5-2-5-3(1) 植物に関する現地調査における基本的な手法

調査すべき情報	調査の基本的な手法
植物相の把握	<p>植物相の調査は、調査地域を踏査することにより行った。植物相の調査に当たっては、調査地域の区域ごとに生育する植物の種類（必要に応じて変種・亜種レベル）を調査し、種名リストを作成した。種名リストには、和名・学名の他に、重要な種に該当するものや帰化植物又は植栽・逸出を考えられるものについて記述する。また、地域の特性を把握する上で注目される種についても抽出した。</p> <p>現地において同定が難しい種類については、その個体の育成に影響がない範囲で採取し標本として保存するか、又は写真撮影を行うことにより、種を確定するための資料とした。</p>
植生の把握	<p><b>【植物群落の調査】</b> 植物社会学的方法（全推定法）に基づいた植生調査を実施した。植生調査の調査地点は地域の植生特性が把握できるように設定した。また、コドラートの面積は群落の組成特性を把握できる広さとして、草地植生では 25 m<sup>2</sup>（5m×5m）程度、樹林地植生では群落高を 1 辺とする正方形（群落高が 15m であれば 225 m<sup>2</sup>（15m×15m）、群落高が 20m であれば 400 m<sup>2</sup>（20m×20m）を基本とする。ただし、林分の面積が狭い場合などでは隣接する群落の構成要素が入らないよう方形区の形や面積を適宜設定した。</p> <p>得られた植生調査票をもとにして、群落区分を行う。区分された群落ごとに群落断面模式図を作成し、その特性を解説した。</p> <p><b>【植生図の作成】</b> 最新の空中写真の判読と現地調査により植生分類を行い、現存植生図を作成する。植生の分類は、群落調査の結果から得られる群落区分を基礎にし、相観的な要素を加えて決定する。植生図の縮尺は 1/3000 とした。</p> <p>得られた現存植生図から、図上において群落別の面積を測定し、調査地域の植生分布の特性を把握した。</p> <p><b>【群落構造の調査】</b> 調査地域における特徴的又は代表的な群落について一定のコドラート（面積は前述のとおり）を設けて群落構造の調査を実施し、群落の階層構造、現存量、遷移上の位置づけ等を把握した。</p>

表 5-2-5-3(2) 植物に関する現地調査における基本的な手法

調査すべき情報	調査の基本的な手法
重要な種の分布・生育状況の把握	<p>【重要な種の選定】 選定された重要な種のうち、調査地域で確認された種については、その生育状況（生育地の位置、生育環境、群落構造、育成量等）を調査した。</p> <p>【重要な群落の選定】 得られた群落調査の結果から、調査地域における重要な群落を抽出した。抽出に当たっては、国及び千葉県作成のレッドデータブック（レッドリスト）及び地域の調査研究資料等を参考にするとともに、環境保全上の機能（動物の生息環境も含めた自然環境保全、景観保全、土砂流出防止、水源涵養等）が高いと考えられる植生群落について考慮した。</p>
植生自然度の状況の把握	得られた群落調査の結果から、植生自然度を判別し、植生自然度図を作成した。
情報の整理及び解析	<p>以下の図表を作成するなどして得られた情報を整理、解析し、調査地域の植物相、植生、重要な種・群落等の状況を把握するとともに、可能な限り調査地域の植物相の生物地理的位置づけや帰化率の分析等を行い地域の特性を把握した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種名リスト</li> <li>・重要な種のリストとその分布図</li> <li>・地域の特性を把握する上で注目される種の分布図</li> <li>・現存植生図</li> <li>・群落区分表、群落断面模式図等</li> <li>・重要な群落の分布図</li> <li>・植生自然度図</li> <li>・指定、規制状況図</li> <li>・重要な種、群落の写真</li> <li>・その他</li> </ul>

## (5) 調査結果

### ① 既存資料調査

#### ア. 植物相の状況

対象事業実施区域及び周辺区域の植物相の状況は「3-1-12 植物の生育及び植生の状況」(P. 68) に示したとおりである。

既存資料によると対象事業実施区域及びその周辺で確認されている植物は 142 科 885 種であった。

#### イ. 植生の状況

対象事業実施区域周辺約 2km の範囲における植生の状況は「3-1-12 植物の生育及び植生の状況」(P. 70～P. 71) に示したとおりである。

既存資料によると対象事業実施区域の植生の大部分は水田雑草群落となっている。周辺部は西側、南側、東側の大部分が市街地となっているが、北側にかけては水田雑草群落と畑地雑草群落が広がり、斜面部にはクヌギーコナラ群集が帯状に分布している。

#### ウ. 重要な種の状況

対象事業実施区域及びその周辺における重要な植物の状況については「3-1-12 植物の生育及び植生の状況」(P. 68～P. 69) に示したとおりである。

既存資料によると対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要な植物は 30 科 47 種であった。

#### エ. 重要な群落の状況

対象事業実施区域及びその周辺における重要な群落の状況については「3-1-12 植物の生育及び植生の状況」(P. 70、P. 72) に示したとおりである。

既存資料によると対象事業実施区域には重要な群落はない。周辺には南東方向約 1km に位置する「船橋八坂神社の周辺の杜」と、南東方向約 4km に位置する「鷺沼古峯神社の森」が特定植物群落として記載されている。

#### オ. 植生自然度の状況

対象事業実施区域及びその周辺における植生自然度の状況に係る資料はない。

#### カ. 指定・規制の状況

自然環境の保全に係る指定及び規制の状況は、「3-2-8 環境保全関係法令による指定及び規制等の状況」(P. 123) に示したとおりである。対象事業実施区域及びその周辺において自然環境保全に係る指定・規制はない。

## ② 現地調査

### ア. 植物相の状況

現地調査により表 5-2-5-4 及び表 5-2-5-5 に示す 118 科 561 種の植物が確認された。

分類別に見ると、被子植物が 528 種で最も多く、次いでシダ植物が 26 種、裸子植物が 7 種であった。調査区域別に見ると、対象事業実施区域において 418 種、周辺区域において 507 種の生育が確認された。

対象事業実施区域には耕作放棄されて乾いた立地が多く、セイタカアワダチソウやネズミムギ、オオスズメノカタビラ、イヌムギ、シラホシムグラ、アメリカオニアザミ等の帰化植物やクズ等のツル植物が目立ってみられた。

調査地域は気候的には暖温帯に位置しており、地形的には低地の占める割合が高く、海老川や念田川等の小河川が流れ、周辺には標高差の小さい台地が分布している。

調査地域北東側の台地斜面には、スダジイ、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、モチノキ、ネズミモチ、アオキ等の常緑広葉樹やベニシダ、オオイタチシダ、イノデ等のシダ類等の暖地性植物がみられた。

飯山満川周辺などには湿った環境があり、ヨシ、コガマ、サンカクイ等の抽水植物の他、イヌスギナ、セリ、イヌビエ、スズメノテッポウ、チゴザサ、アゼナルコ、タマガヤツリ、イヌホタルイ、ヒメヒラテンツキ、カワラスガナ、ヒメミズワラビ、キクモ、コオニタビラコ等の低茎植物が生育していた。一方、アメリカタカサブロウ、ヒレタゴボウ、ムクゲアカバナ、アメリカキカシグサ等の湿性の帰化植物も目立ってみられた。

飯山満川等の河川や南側の調整池にはヒメガマ、マコモ、クサヨシ等の抽水植物がみられ、北谷津川にはヤナギモ、エビモ等の沈水植物が生育していた。河川内には特定外来種のオオカワヂシャ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ等の生育もみられた。

確認種のうち、帰化種（逸出種を含む）は 190 種であり、帰化率は 33.9%であった。

表 5-2-5-4 植物分類別確認種数

分類名	科数	種数	帰化種	対象事業 実施区域	周辺区域
シダ植物	8	26	3	15	23
裸子植物	5	7	0	2	7
被子植物	105	528	187	401	477
合 計	118 科	561 種	190 種	418 種	507 種

表 5-2-5-5(1) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
シダ植物									
1	トクサ	スキナ	●	●	●	●	●	●	
2		イヌスキナ		●	●	●	●	●	
3		イヌトクサ			●	●	●	●	
4	カニクサ	カニクサ			●	●	●	●	
5	コハノイシカグマ	ワラビ				●	●	●	
6	イノトソウ	ホウライシダ	●	●	●	●		●	逸
7		ヒメミスワラビ				●	●	●	
8		タチシノブ	●	●	●	●	●	●	
9		オオハノイノトソウ	●		●			●	
10		イノトソウ	●	●	●	●	●	●	
11		モエシマシダ	●		●	●	●	●	逸
12	オシダ	ナカハヤブソテツ	●	●	●	●	●		
13		オニヤブソテツ	●	●	●		●	●	
14		ヤマヤブソテツ				●	●	●	
15		テリハヤブソテツ			●		●		
16		ヤマイタチシダ	●		●	●		●	
17		ヘニシダ	●	●	●	●		●	
18		トウゴクシダ	●					●	
19		オオイタチシダ	●	●	●	●		●	
20		オクマワラビ	●	●	●	●		●	
21		イノテ	●	●	●			●	
22	ヒメシダ	ホシダ	●	●	●	●		●	
23		ケシケシシダ		●	●			●	
24		ヒメシダ		●	●	●		●	
25	イワテンダ	イヌワラビ	●	●	●	●	●		
26	サンショウモ	アイオオアカウキクサ			●	●	●	●	帰
裸子植物									
27	イチョウ	イチョウ				●		●	栽、逸
28	イヌカヤ	イヌカヤ				●		●	
29	ヒノキ	ヒノキ	●	●	●	●	●	●	栽
30		サワラ	●	●	●	●	●	●	栽
31	マツ	ヒマラヤスキ				●		●	栽
32		クロマツ	●	●	●			●	
33	マキ	イヌマキ			●			●	
被子植物									
34	トクダミ	トクダミ	●	●	●	●	●	●	
35		ハンゲショウ		●	●	●		●	

表 5-2-5-5(2) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
36	モクレン	コブシ	●	●	●	●		●	
37	クスノキ	クスノキ	●	●	●	●	●	●	栽、逸
38		ヤブニッケイ	●	●	●	●	●	●	
39		タブノキ	●	●	●	●	●	●	
40		シロダモ	●	●	●	●	●	●	
41	ショウブ	ショウブ		●		●	●	●	
42	サトイモ	ウラシマソウ	●	●	●			●	
43		カラスビシャク		●	●	●	●	●	
44		アオウキクサ			●	●	●	●	
45		コウキクサ			●			●	
46		ヒナウキクサ			●	●	●	●	●
47		ウキクサ		●	●	●	●	●	
48	オモダカ	ヘラオモダカ		●	●	●	●	●	
49	トチカガミ	オオカナタモ	●		●	●	●	●	帰
50	ヒルムシロ	エビモ	●	●	●			●	
51		ヤナギモ			●	●	●	●	
52	ヤマノイモ	ヤマノイモ			●	●	●	●	
53		ナガイモ		●	●	●	●	●	帰
54		オニトコロ		●	●	●		●	
55	イヌサフラン	ホウチャクソウ		●	●			●	
56	サルトリイバラ	サルトリイバラ		●	●	●		●	
57	ユリ	ヤマユリ			●			●	
58		オニユリ			●		●		栽、逸
59	ラン	ネジバナ			●			●	
60	アヤメ	ヒメヒオウキズイセン			●		●	●	帰
61		キショウブ		●	●	●	●	●	帰
62		オオニワゼキショウ		●	●			●	帰
63		ニワゼキショウ		●	●			●	帰
64		セッカニワゼキショウ		●				●	帰
65	ワスレグサ	ヤブカンゾウ			●	●	●	●	
66	ヒガンバナ	ノビル	●	●			●	●	
67		ニラ		●	●	●	●	●	帰
68		ハナニラ	●				●	●	帰
69		ヒガンバナ				●	●	●	
70		スイセン	●					●	帰
71	キジカクシ	ツルホ		●		●		●	
72		ヤブラン	●		●	●		●	
73		ノシラン			●			●	
74		ジャノヒゲ	●	●	●	●	●	●	
75		ナカハジノヒゲ	●	●	●	●	●	●	

表 5-2-5-5(3) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
76	キジカクシ	ナルコユリ		●	●			●	
77		アマトコロ		●			●		
78		キチシヨウソウ				●	●		
79	ヤシ	シュロ	●	●	●	●	●	●	帰
80	ツユクサ	マルハツユクサ			●	●	●	●	
81		ツユクサ		●	●	●	●	●	
82		イホクサ			●	●	●	●	
83		ノハカタラクサ	●	●	●	●	●	●	帰
84	ミスアオイ	コナギ			●	●	●	●	
85	ショウガ	ミョウガ		●			●		帰
86	ミクリ	オオミクリ			●		●	●	
-		ミクリ属の一種		●	●		●	●	
87	ガマ	ヒメガマ		●	●	●	●	●	
88		ガマ			●	●	●	●	
89		コガマ			●	●	●	●	
90	イグサ	ヒメコウガ イセキショウ		●				●	
91		イグサ	●	●	●	●	●	●	
92		コウガ イセキショウ		●	●	●	●	●	
93		ホソイ		●		●	●	●	
94		クサイ		●	●	●	●	●	
95		ハリコウガ イセキショウ				●	●		
96		スズメノヤリ		●				●	
97	カヤツリグサ	ウキヤガラ			●		●	●	
98		コウキヤガラ		●	●		●	●	
99		シラスゲ		●			●		
100		エナシヒコクサ		●				●	
101		メアオスゲ		●			●		
102		ヒメカンスゲ	●					●	
103		アセナルコ		●		●	●	●	
104		ハマアオスゲ		●				●	
105		マスクサ		●		●	●	●	
106		ヒコクサ		●			●	●	
107		ナキリスゲ				●		●	
108		アオスゲ	●	●			●	●	
109		ノゲヌカスゲ	●	●				●	
110		ホンモンジスゲ		●				●	
111		チャカヤツリ			●	●	●	●	
112	アイダクゲ			●			●		
113	ヒメクゲ			●	●	●	●		
114	タマカヤツリ			●	●	●	●		
115	ヒナカヤツリ			●	●	●	●		

表 5-2-5-5(4) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考	
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域		
116	カヤツリグサ	アセ <sup>レ</sup> ガ <sup>ク</sup> ヤツリ			●	●	●	●		
117		ヌマカ <sup>ク</sup> ヤツリ				●	●			
118		ココ <sup>ク</sup> メカ <sup>ク</sup> ヤツリ			●	●	●	●		
119		カヤツリグサ			●	●	●	●		
120		アオカ <sup>ク</sup> ヤツリ			●	●	●	●		
121		ハマスケ <sup>ク</sup>			●	●	●	●		
122		カワラスカ <sup>ク</sup> ナ				●	●	●		
123		マツハ <sup>ク</sup> イ				●		●		
124		クロク <sup>ク</sup> ワイ			●	●	●			
125		ヒメヒラテンツキ				●	●	●		
126		テンツキ				●	●			
127		ヒテ <sup>ク</sup> リコ				●	●	●		
128		アセ <sup>ク</sup> テンツキ			●	●	●			
129		ホタルイ				●	●			
130		イヌホタルイ			●	●	●	●		
131		カンカ <sup>ク</sup> レイ				●	●			
132		サンカクイ			●	●	●	●		
133		マツカサススキ				●		●		
134		イネ	コスカ <sup>ク</sup> グサ			●			●	帰
135			ノハラス <sup>ク</sup> メノテッポ <sup>ク</sup> ウ		●				●	
136	ス <sup>ク</sup> メノテッポ <sup>ク</sup> ウ		●	●			●	●		
137	メリケンカルカヤ					●	●	●	帰	
138	コブ <sup>ク</sup> ナグサ				●	●	●	●		
139	カラスムキ <sup>ク</sup>			●				●	帰	
140	コバ <sup>ク</sup> ンソウ			●			●	●	帰	
141	ヒメコバ <sup>ク</sup> ンソウ			●				●	帰	
142	イヌムキ <sup>ク</sup>		●	●			●	●	帰	
143	ヒゲ <sup>ク</sup> ナカ <sup>ク</sup> ス <sup>ク</sup> メノチャヒキ			●	●		●	●	帰	
144	ス <sup>ク</sup> メノチャヒキ			●	●		●	●		
145	ヤマアワ				●	●	●	●		
146	シ <sup>ク</sup> ユス <sup>ク</sup> タ <sup>ク</sup> マ					●	●	●	帰	
147	キ <sup>ク</sup> ョウキ <sup>ク</sup> シハ <sup>ク</sup>			●	●	●	●	●		
148	カモカ <sup>ク</sup> ヤ			●	●		●	●	帰	
149	メヒシハ <sup>ク</sup>				●	●	●	●		
150	アキメヒシハ <sup>ク</sup>					●	●	●		
151	ケイヌヒ <sup>ク</sup> エ					●	●			
152	イヌヒ <sup>ク</sup> エ				●	●	●	●		
153	ヒメイヌヒ <sup>ク</sup> エ					●	●	●		
154	タイヌヒ <sup>ク</sup> エ				●	●	●	●		
155	オヒシハ <sup>ク</sup>				●	●	●	●		

表 5-2-5-5 (5) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
156	イネ	アオカモシグサ	●	●			●	●	
157		カモシグサ	●	●			●	●	
158		シナダレスズメカヤ				●	●	●	帰
159		カゼグサ				●	●	●	
160		コスズメカヤ			●	●	●	●	帰
161		ニワホコリ			●	●	●	●	
162		オニシノケグサ		●		●	●	●	帰
163		ウシノシッペイ				●		●	
164		ムキグサ		●	●		●	●	帰
165		チカヤ		●		●	●	●	
166		チコスサ			●	●	●	●	
167		アシキ				●	●	●	
168		エゾノサヤスカグサ				●	●		
169		アセカヤ				●		●	
170		ネズミムギ		●			●	●	帰
171		アシボソ				●	●	●	
172		オギ		●	●	●	●	●	
173		ススキ		●	●	●	●	●	
174		コチチミササ			●	●	●	●	
175		ケチチミササ		●	●	●	●	●	
176		ヌカキヒ				●	●	●	
177		オオクサキヒ				●	●	●	帰
178		シマスズメノヒエ			●	●	●	●	帰
179		キシウスズメノヒエ			●	●	●	●	帰
180		スズメノヒエ				●	●	●	
181		タチスズメノヒエ			●			●	帰
182		チカラシハ				●	●	●	
183		クサヨシ		●	●	●	●	●	
184	カナリークサヨシ		●				●	帰	
185	ヨシ		●	●	●	●	●		
186	モウソウチク			●			●	帰	
187	ハチク		●	●			●	栽	
188	マダケ	●	●	●	●	●	●	帰	
189	アズマネササ	●	●	●	●	●	●		
190	メダケ			●	●	●	●		
191	ミゾイチゴツナギ	●	●			●	●		
192	アオスズメノカタヒラ	●				●	●	帰	
193	オオスズメノカタヒラ		●			●	●	帰	
194	タマオオスズメノカタヒラ		●			●	●	帰	
195	ヒエカエリ		●			●	●		

表 5-2-5-5(6) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
196	イネ	ミノホ <sup>◦</sup> ロモト <sup>◦</sup> キ		●				●	帰
197		ナリヒラダ <sup>◦</sup> ケ		●			●	●	栽
198		アキノエノコログ <sup>◦</sup> サ			●	●	●	●	
199		コツフ <sup>◦</sup> キンエノコロ			●	●	●	●	
200		キンエノコロ				●	●	●	
201		エノコログ <sup>◦</sup> サ			●	●	●	●	
202		オオエノコロ			●	●	●	●	
203		セイハ <sup>◦</sup> ンモロコシ			●	●	●	●	帰
204		ネス <sup>◦</sup> ミノオ				●		●	
205		ムラサキネス <sup>◦</sup> ミノオ			●	●	●	●	
206		ナギ <sup>◦</sup> ナタガ <sup>◦</sup> ヤ			●		●	●	帰
207		マコモ		●	●	●	●	●	
208		シハ <sup>◦</sup>		●	●	●	●	●	
209	ケシ	クサノオウ	●	●	●		●	●	
210	ケマンソウ	ムラサキケマン		●			●		
211	ケシ	タケニク <sup>◦</sup> サ			●	●		●	
212		ナカ <sup>◦</sup> ミヒナケ <sup>◦</sup> シ	●	●			●	●	帰
213	アケビ <sup>◦</sup>	アケビ <sup>◦</sup>	●	●	●	●	●	●	
214		ミツハ <sup>◦</sup> アケビ <sup>◦</sup>	●	●	●	●		●	
215		ゴ <sup>◦</sup> ヨウアケビ <sup>◦</sup>	●	●	●		●	●	
216	ツツ <sup>◦</sup> ラフジ <sup>◦</sup>	アオツツ <sup>◦</sup> ラフジ <sup>◦</sup>		●	●	●	●	●	
217	メギ <sup>◦</sup>	ホソハ <sup>◦</sup> ヒイラキ <sup>◦</sup> ナンテン			●			●	逸
218		ナンテン			●	●		●	帰
219	キンホ <sup>◦</sup> ウケ <sup>◦</sup>	センニンソウ		●	●	●	●	●	
220		ケキツネノホ <sup>◦</sup> タン	●	●	●		●	●	
221		タカ <sup>◦</sup> ラシ	●	●	●		●	●	
222		ヒメウス <sup>◦</sup>	●	●				●	
223		アキカラマツ		●	●	●		●	
224	スグリ	ヤブ <sup>◦</sup> サンサ <sup>◦</sup> シ	●					●	
225	ユキノシタ	ユキノシタ	●			●	●		逸
226	ヘ <sup>◦</sup> ンケイソウ	コモチマンネンク <sup>◦</sup> サ	●	●	●	●	●	●	
227		タイトコ <sup>◦</sup> メ			●			●	
228		オカタイトコ <sup>◦</sup> メ			●			●	
229		オノマンネンク <sup>◦</sup> サ			●			●	帰
230		ツルマンネンク <sup>◦</sup> サ		●	●	●	●	●	帰
231	タコノアシ	タコノアシ		●			●		
232	アリノトウグ <sup>◦</sup> サ	オオフサモ	●		●		●	●	帰
233	フ <sup>◦</sup> トウ	ノブ <sup>◦</sup> トウ		●	●	●	●	●	
234		ヤブ <sup>◦</sup> カラシ		●	●	●	●	●	
235		ツタ	●	●	●	●	●	●	

表 5-2-5-5(7) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
236	フトウ	エビヅル		●	●	●	●	●	
237	マメ	クサネム			●	●	●		
238		ネムノキ			●	●		●	
239		ヤブマメ		●	●	●	●	●	
240		アレチヌスビトハギ			●	●		●	帰
241		ツルマメ			●	●	●	●	
242		マルバヤハスソウ			●	●	●		
243		ヤハスソウ			●	●	●	●	
244		メトハギ			●	●	●	●	
245		ネコハギ			●		●	●	
246		ミヤコグサ			●		●		
247		コメツブウマコヤシ		●	●		●	●	帰
248		シナカワハギ			●	●	●	●	帰
249		クス		●	●	●	●	●	
250		タンキリマメ		●	●	●		●	
251		クスタマツメクサ		●				●	帰
252		コメツブツメクサ		●			●	●	帰
253		ムラサキツメクサ	●	●	●	●	●	●	帰
254		シロツメクサ	●	●	●	●	●	●	帰
255		スズメノエンドウ	●				●		
256		ヤハスエンドウ	●	●		●	●	●	
257	ヤブツルアズキ			●	●	●	●		
258	フジ		●	●	●	●	●		
259	バラ	オオシマザクラ	●					●	
260		ソメイヨシノ				●	●		栽
261		ヒメリン	●	●	●	●	●	●	帰
262		イヌザクラ	●	●	●			●	
263		ヘビイチゴ	●	●	●	●	●	●	
264		オキシムシロ	●	●	●	●	●	●	帰
265		カマツカ		●				●	
266		タチバナモドキ	●	●	●		●	●	栽
267		トキワサンザシ		●	●	●	●	●	逸
268		カサデマリ			●			●	逸
269		シャリンハイ	●	●	●	●		●	
270		シロヤマブキ			●			●	逸
271		テリハノイバラ	●	●	●	●	●	●	
272		ノイバラ	●	●	●	●	●	●	
273		ナリシロイチゴ		●	●	●	●	●	
274		ユキヤナギ	●				●		帰
275	ゲミ	ナリシロゲミ		●			●		

表 5-2-5-5(8) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
276	ニレ	ケヤキ	●	●	●	●	●	●	
277	アサ	ムクノキ	●	●	●	●	●	●	
278		エノキ	●	●	●	●	●	●	
279		カナムグサ		●	●	●	●	●	
280	クワ	ヒメコウゾ		●	●		●	●	
281		クワクサ			●	●	●	●	
282		マクワ		●				●	栽
283		ヤマクワ		●		●	●	●	
284	イラクサ	トウコクヤブマオ			●		●	●	
285		ヤブマオ			●	●	●	●	
286		カラムシ		●	●	●	●	●	
287		アオミス			●	●	●	●	
288	フナ	クワ			●		●		
289		スタシイ	●		●	●		●	
290		アカガシ	●	●	●	●		●	
291		クスギ		●	●	●		●	
292		シラカシ	●	●	●	●		●	
293		コナラ	●	●	●	●		●	
294	クルミ	オニグルミ			●	●	●	●	
295		シナサワグルミ	●	●	●	●	●	●	栽、逸
296	カハノキ	イヌシテ		●	●	●		●	
297		ハシハミ		●			●	●	
298	ウリ	アマチャヅル		●				●	
299		スズメウリ			●	●	●	●	
300		アレチウリ			●	●	●	●	帰
301		カラスウリ			●	●	●	●	
302		キカラスウリ			●	●	●	●	
303	ニシキギ	ツルウメモドキ		●	●	●		●	
304		マサキ	●	●	●	●	●	●	
305		マユミ	●	●	●	●	●	●	
306		カントウマユミ		●				●	
307	カタハミ	イモカタハミ		●	●		●	●	帰
308		カタハミ		●	●	●	●	●	
309		ムラサキカタハミ		●	●		●	●	帰
310		オッタチカタハミ		●	●	●	●	●	帰
311	トウダイクサ	エノキグサ			●	●	●	●	
312		オオハベニガシラ		●	●		●		逸
313		ニシキソウ			●	●	●	●	
314		コニシキソウ			●	●	●	●	帰
315		オオニシキソウ			●	●	●	●	帰

表 5-2-5-5(9) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
316	トウダ <sup>レ</sup> イグ <sup>サ</sup>	アレチニシキソウ			●	●	●	●	帰
317		アカメカ <sup>シ</sup>		●	●	●	●	●	
318		トウコ <sup>マ</sup>				●	●	●	帰
319		ナンキンハゼ <sup>レ</sup>			●		●		帰
320	ミカンソウ	コミカンソウ				●	●		
321		ナカ <sup>レ</sup> エコミカンソウ			●	●		●	帰
322	ヤナキ <sup>レ</sup>	シタ <sup>レ</sup> ヤナキ <sup>レ</sup>	●		●	●	●	●	栽、逸
323		マルハ <sup>レ</sup> ヤナキ <sup>レ</sup>		●	●	●	●	●	
324		ネコヤナキ <sup>レ</sup>				●		●	栽
325		イヌコリヤナキ <sup>レ</sup>	●					●	
326		カワヤナキ <sup>レ</sup>	●	●	●	●	●	●	
327		タチヤナキ <sup>レ</sup>	●	●	●	●	●	●	
328	スミレ	タチツボ <sup>レ</sup> スミレ	●		●			●	
329		ヒメスミレ		●				●	
330	フウロソウ	アメリカフウロ	●	●			●	●	帰
331		ゲンノショウコ	●	●	●	●	●	●	
332	ミソハギ <sup>レ</sup>	シマミソハギ <sup>レ</sup>				●	●		帰
333		ホソバ <sup>レ</sup> ヒメミソハギ <sup>レ</sup>				●	●	●	帰
334		ミソハギ <sup>レ</sup>			●		●	●	
335		アメリカカキカング <sup>サ</sup>				●	●	●	帰
336	アカハ <sup>ナ</sup>	ノダ <sup>レ</sup> アカハ <sup>ナ</sup>				●	●	●	帰
337		ムクゲ <sup>レ</sup> アカハ <sup>ナ</sup>			●	●	●	●	帰
338		アカハ <sup>ナ</sup>			●	●	●	●	
339		ヒレタコ <sup>レ</sup> ホ <sup>ウ</sup>			●	●	●	●	帰
340		チョウジ <sup>レ</sup> タテ <sup>レ</sup>			●	●	●	●	
341		ウスケ <sup>レ</sup> チョウジ <sup>レ</sup> タテ <sup>レ</sup>			●	●	●	●	
342		メマツヨイグ <sup>サ</sup>		●	●	●	●	●	帰
343		コマツヨイグ <sup>サ</sup>	●	●	●	●	●	●	帰
344		ユウゲ <sup>レ</sup> ショウ	●	●	●	●	●	●	帰
345		ヒルサ <sup>レ</sup> キツキミソウ		●				●	帰
346	ミツハ <sup>レ</sup> ウツキ <sup>レ</sup>		●		●		●		
347	ウルシ	ヌルテ <sup>レ</sup>		●	●	●	●	●	
348		ハセ <sup>レ</sup> ノキ		●	●	●	●	●	
349	ミカン	サンショウ		●	●			●	
350	ニガ <sup>キ</sup>	ニワウルシ			●		●		帰
351		ニガ <sup>キ</sup>		●	●	●		●	
352	センタ <sup>ン</sup>	センタ <sup>ン</sup>			●		●		逸
353	アオイ	イチビ <sup>レ</sup>			●		●		帰
354		セ <sup>レ</sup> ニアオイ		●	●		●	●	帰
355		セ <sup>レ</sup> ニハ <sup>レ</sup> アオイ		●	●		●	●	帰

表 5-2-5-5(10) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考	
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域		
356	アオイ	アキギリ		●				●	逸	
357	アブラナ	シロイナズナ	●					●	帰	
358		カラシナ	●	●			●	●	帰	
359		セイヨウアブラナ	●	●			●	●	帰	
360		ナスナ	●	●			●	●		
361		ミチタネツケハナ	●				●	●	帰	
362		タネツケハナ	●	●	●	●	●	●		
363		カラクサナスナ		●			●		帰	
364		マメクソハナスナ		●	●	●	●	●	帰	
365		オランダカラシ	●	●	●	●	●	●	帰	
366		ショカツサイ	●	●			●	●	帰	
367		イヌカラシ		●	●		●	●		
368		スカシタゴボウ		●	●	●	●	●		
369		タデ	イタドリ		●	●	●	●	●	
370	ヒメツルソバ		●	●	●	●	●	●	帰	
371	ミスヒキ			●	●	●		●		
372	ヤナキタデ					●	●	●		
373	オオイスタデ				●	●	●	●	帰	
374	イヌタデ				●	●	●	●		
375	イシミカワ			●	●	●	●	●		
376	アキノウナキツカミ			●	●	●	●	●		
377	ミゾソバ				●	●	●	●		
378	ミチヤナキ		●	●	●	●	●	●		
379	スイハ			●			●	●		
380	アレチキシギシ				●		●	●	帰	
381	ナカハキシギシ			●		●	●	●	帰	
382	キシギシ			●	●		●	●		
383	エゾノキシギシ		●	●	●	●	●	●	帰	
384	ナデシコ		ノミノツヅリ	●	●			●	●	
385			ミミナグサ			●		●		
386		オランダミミナグサ	●	●			●	●	帰	
387		ミチハタナデシコ		●			●	●	帰	
388		ツメクサ		●			●	●		
389		ハマツメクサ		●			●	●		
390		マンテマ		●				●	帰	
391		ウシハコベ	●	●	●	●	●	●		
392		コハコベ	●	●			●	●	帰	
393		ミドリハコベ	●	●	●		●	●		
394		イヌコハコベ	●				●	●	帰	
395		ノミノフスマ	●	●			●	●		

表 5-2-5-5(11) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
396	ヒユ	シロサ <sup>ゞ</sup>		●	●	●	●	●	帰
397		アカサ <sup>ゞ</sup>			●		●		帰
398		アリタソウ			●	●	●		帰
399		コアカサ <sup>ゞ</sup>		●	●		●	●	帰
400		コ <sup>ゝ</sup> ウシュウアリタソウ		●	●	●	●	●	帰
401		ヒナタイノコヅ <sup>ゞ</sup> チ				●	●	●	
402		イノコヅ <sup>ゞ</sup> チ				●		●	
403		ナカ <sup>ゝ</sup> エツルノケ <sup>ゞ</sup> イトウ		●	●	●	●		帰
404		イヌヒユ			●	●	●		帰
405		ホアオケ <sup>ゞ</sup> イトウ				●	●	●	帰
406		ホカ <sup>ゝ</sup> イヌヒユ			●	●	●	●	帰
407		ヤマコ <sup>ゝ</sup> ホ <sup>ゝ</sup> ウ	ヨウシュヤマコ <sup>ゝ</sup> ホ <sup>ゝ</sup> ウ		●	●	●	●	帰
408		オシロイハ <sup>ゞ</sup> ナ	オシロイハ <sup>ゞ</sup> ナ			●	●	●	帰
409	サ <sup>ゞ</sup> クロソウ	サ <sup>ゞ</sup> クロソウ			●	●	●		
410	スベ <sup>ゞ</sup> リヒユ	スベ <sup>ゞ</sup> リヒユ			●	●	●		
411		ハセ <sup>ゞ</sup> ラン			●	●		●	帰
412	ミス <sup>ゞ</sup> キ	ミス <sup>ゞ</sup> キ		●		●		●	
413	アシ <sup>ゞ</sup> サイ	ウツキ <sup>ゞ</sup>		●	●	●	●	●	
414	モック	ヒサカキ	●	●	●	●		●	
415		モック				●		●	
416	カキノキ	カキノキ		●	●	●	●	●	帰
417	ヤブ <sup>ゞ</sup> コウジ <sup>ゞ</sup>	マンリョウ				●		●	
418		ヤブ <sup>ゞ</sup> コウジ <sup>ゞ</sup>	●		●	●		●	
419		オカトラノオ			●			●	
420		コナスビ <sup>ゞ</sup>		●	●	●	●	●	
421	ツバ <sup>ゞ</sup> キ	ヤブ <sup>ゞ</sup> ツバ <sup>ゞ</sup> キ	●	●	●	●		●	
422	ハイノキ	サワフタギ <sup>ゞ</sup>		●				●	
423	エコ <sup>ゞ</sup> ノキ	エコ <sup>ゞ</sup> ノキ		●	●			●	
424	アオキ	アオキ	●	●	●	●	●	●	
425	アカネ	シラホシムク <sup>ゞ</sup> ラ		●			●	●	帰
426		ヤエムク <sup>ゞ</sup> ラ		●			●	●	
427		フタバムク <sup>ゞ</sup> ラ				●	●		
428		ハシカク <sup>ゞ</sup> サ			●	●	●	●	
429		ヘクソカス <sup>ゞ</sup> ラ		●	●	●	●	●	
430		アカネ		●	●	●	●	●	
431	リント <sup>ゞ</sup> ウ	ハナハマセンフ <sup>ゞ</sup> リ			●		●		帰
432	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	●	●	●	●	●	●	帰
433		ガ <sup>ゞ</sup> カ <sup>ゞ</sup> イモ		●	●	●	●	●	
434	ムラサキ	ハナイハ <sup>ゞ</sup> ナ			●	●	●	●	
435		ノハラムラサキ		●				●	帰

表 5-2-5-5(12) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
436	ムラサキ	ヒレハリソウ				●		●	帰
437		キュウリグサ	●	●	●	●	●	●	
438	ヒルカ <sup>オ</sup>	コヒルカ <sup>オ</sup>		●	●	●	●	●	
439		ヒルカ <sup>オ</sup>			●		●		
440		マルハ <sup>ル</sup> コウ				●		●	帰
441		マルハ <sup>ア</sup> メリカアサカ <sup>オ</sup>				●	●	●	帰
442		マメアサカ <sup>オ</sup>				●	●	●	帰
443	ナス	クコ	●	●	●	●	●	●	帰
444		ワルナス <sup>ビ</sup>			●	●	●	●	帰
445		ヒヨト <sup>リ</sup> シ <sup>ョウ</sup> コ <sup>ゴ</sup>	●	●	●	●	●	●	
446		イヌホス <sup>キ</sup>			●	●	●	●	帰
447	モクセイ	シマトネ <sup>リ</sup> コ				●		●	逸
448		ネス <sup>ミ</sup> モチ	●	●	●	●	●	●	
449		トウネス <sup>ミ</sup> モチ	●	●	●	●	●	●	栽、逸
450		イホ <sup>タ</sup> ノキ		●	●		●	●	
451		オオハ <sup>イ</sup> ホ <sup>タ</sup>		●	●	●		●	
452		ヒイラ <sup>キ</sup>				●	●		
453	オオハ <sup>コ</sup>	ツタハ <sup>ウ</sup> ンラン	●	●	●	●	●	●	帰
454		キクモ				●	●		
455		オオカワチ <sup>シ</sup> ヤ	●	●			●	●	帰
456		タチイヌノフク <sup>リ</sup>	●	●			●	●	帰
457		フラサハ <sup>ソ</sup> ウ	●	●			●	●	帰
458		ムシクサ	●	●			●	●	
459		オオイヌノフク <sup>リ</sup>	●	●			●	●	帰
460		カワチ <sup>シ</sup> ヤ	●	●			●	●	
461		オオハ <sup>コ</sup>	●	●	●	●	●	●	
462		ヘラオオハ <sup>コ</sup>	●	●	●	●	●	●	帰
463		セイヨウオオハ <sup>コ</sup>				●		●	帰
464		ツホ <sup>ミ</sup> オオハ <sup>コ</sup>		●			●	●	帰
465	ゴ <sup>マ</sup> ノハク <sup>サ</sup>	ヒ <sup>ロ</sup> ート <sup>モ</sup> ウス <sup>イ</sup> カ	●	●	●	●	●	●	帰
466	アゼ <sup>ナ</sup>	ウリクサ				●	●		
467		タケトアゼ <sup>ナ</sup>			●	●	●	●	帰
468		アメリカアゼ <sup>ナ</sup>			●	●	●	●	帰
469		アゼ <sup>ナ</sup>			●	●	●	●	
470	シソ	コムラサキ			●		●		逸
471		ムラサキシキ <sup>フ</sup>		●	●	●		●	
472		ホ <sup>タ</sup> ンクサ <sup>キ</sup>			●			●	帰
473		クサ <sup>キ</sup>		●	●	●	●	●	
474		トウハ <sup>ナ</sup>		●				●	
475		カキト <sup>オ</sup> シ	●	●	●	●	●	●	

表 5-2-5-5(13) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
476	シソ	ホトケノザ <sup>ㇰ</sup>	●	●	●		●	●	
477		ヒメオト <sup>ㇱ</sup> リコソウ	●	●			●	●	帰
478		ハッカ		●	●	●	●	●	
479		オランダ <sup>ㇲ</sup> ハッカ			●			●	帰
480		マルハ <sup>ㇳ</sup> ハッカ			●	●	●	●	帰
481		ヒメジ <sup>ㇴ</sup> ソ				●	●	●	
482		イヌコウジ <sup>ㇵ</sup> ユ			●			●	
483		シソ			●		●		逸
484		エゴ <sup>ㇶ</sup> マ				●	●	●	逸
485		ニガ <sup>ㇷ</sup> クサ			●			●	
486		サキ <sup>ㇸ</sup> コケ	トキワハゼ <sup>ㇹ</sup>	●	●	●	●	●	●
487	ハマウツ <sup>ㇺ</sup> ホ	ヤセウツ <sup>ㇻ</sup> ホ		●			●	●	帰
488	キツネノマ <sup>ㇼ</sup> コ	キツネノマ <sup>ㇽ</sup> コ			●	●	●		
489	クマツツ <sup>ㇾ</sup> ラ	ヤナキ <sup>ㇿ</sup> ハナガ <sup>ㇿ</sup> サ		●	●		●	●	帰
490		アレチ <sup>ㇿ</sup> ハナガ <sup>ㇿ</sup> サ		●	●	●	●	●	帰
491		タ <sup>ㇿ</sup> キハ <sup>ㇿ</sup> アレチ <sup>ㇿ</sup> ハナガ <sup>ㇿ</sup> サ			●			●	帰
492	モチノ <sup>ㇿ</sup> キ	イヌツ <sup>ㇿ</sup> ゲ	●					●	
493		モチノ <sup>ㇿ</sup> キ	●	●	●	●		●	
494		クロカ <sup>ㇿ</sup> ネモチ	●		●			●	
495	キキョウ	ツリカ <sup>ㇿ</sup> ネニンジ <sup>ㇿ</sup> ン		●	●	●		●	
496	キク	マルハ <sup>ㇿ</sup> フジ <sup>ㇿ</sup> ハ <sup>ㇿ</sup> カマ			●			●	帰
497		フ <sup>ㇿ</sup> タクサ			●			●	帰
498		オオフ <sup>ㇿ</sup> タクサ		●	●	●	●	●	帰
499		ヨモキ <sup>ㇿ</sup>	●	●	●	●	●	●	
500		ユウカ <sup>ㇿ</sup> ギク			●	●		●	
501		ヒロハ <sup>ㇿ</sup> ホウキギク				●	●	●	帰
502		カントウ <sup>ㇿ</sup> ヨメナ			●	●	●	●	
503		アメリカ <sup>ㇿ</sup> センタ <sup>ㇿ</sup> ング <sup>ㇿ</sup> サ		●	●	●	●	●	帰
504		コセン <sup>ㇿ</sup> タ <sup>ㇿ</sup> ング <sup>ㇿ</sup> サ				●	●	●	帰
505		タウ <sup>ㇿ</sup> コキ			●	●	●	●	
506		トキン <sup>ㇿ</sup> ソウ		●	●	●	●	●	
507		アメリカ <sup>ㇿ</sup> オニアサ <sup>ㇿ</sup> ミ		●	●	●	●	●	帰
508		アレチ <sup>ㇿ</sup> ノギク			●		●	●	帰
509		ヒメム <sup>ㇿ</sup> カシヨモキ		●	●	●	●	●	帰
510		オオアレチ <sup>ㇿ</sup> ノギク		●	●	●	●	●	帰
511	オオキン <sup>ㇿ</sup> ケイギク		●	●		●		帰	
512	ハル <sup>ㇿ</sup> シヤギク			●			●	帰	
513	ママ <sup>ㇿ</sup> カミツレ		●				●	帰	
514	ヘ <sup>ㇿ</sup> ニハ <sup>ㇿ</sup> ナホ <sup>ㇿ</sup> ロギク			●	●	●	●	帰	
515	アメリカ <sup>ㇿ</sup> カタカサ <sup>ㇿ</sup> ブ <sup>ㇿ</sup> ロウ				●	●	●	帰	

表 5-2-5-5(14) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考	
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域		
516	キク	タカサヅロウ				●		●		
517		ダントホロギク				●	●		帰	
518		ヒメシヨオン		●	●	●	●	●	帰	
519		ペラペラヨメナ		●	●			●	帰	
520		ハルシオン	●	●	●	●	●	●	帰	
521		ハキタメギク		●	●	●	●	●	帰	
522		ホソバノチコクサモトギ		●	●		●	●	帰	
523		ウラシロチコクサ	●	●	●	●	●	●	帰	
524		チコクサモトギ	●	●	●	●	●	●	帰	
525		ハハコクサ		●	●		●	●		
526		セイタカハハコクサ	●	●	●	●	●	●	帰	
527		キクイモ				●	●	●	帰	
528		キツネアザミ	●	●			●	●		
529		ブタナ		●	●	●	●	●	帰	
530		オオシシハリ	●	●	●	●	●	●		
531		アキノノゲシ		●	●	●	●	●		
532		コオニタビラコ		●			●	●		
533		フキ	●	●	●	●	●	●		
534		コウゾリナ		●			●			
535		ノホロギク	●	●	●		●	●	帰	
536		セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●	●	帰	
537		オニノゲシ	●	●	●	●	●	●	帰	
538		ノゲシ	●	●	●	●	●	●		
539		セイヨウタンポポ	●	●		●	●	●	帰	
540		カントウタンポポ		●	●		●	●		
541		オオナモミ				●	●	●	帰	
542		オニタビラコ		●			●	●		
543		レンブクソウ	ソクス		●	●	●		●	
544			ニワトコ	●	●	●	●	●	●	
545			カマスミ		●	●	●		●	
546	サンゴシユ		●					●	栽	
547	スイカスラ	スイカスラ	●	●	●	●	●	●		
548	オミナエシ	ノヂシヤ		●				●	帰	
549	トベラ	トベラ	●	●	●	●		●		
550	ウコギ	メダラ	●		●		●	●		
551		ヤマウコギ		●	●	●		●		
552		オカウコギ		●				●		
553		ヤツデ		●	●	●	●	●		
554		キツタ	●	●	●	●	●	●		
555		ハリキリ			●	●		●		

表 5-2-5-5(15) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				調査地域		備考
			早春 季	春季	夏季	秋季	対象事業 実施区域	周辺区域	
556	ウキ	ノチトメ		●	●	●	●	●	
557		ウチワゼニクサ			●			●	帰
558	セリ	ミツハ	●	●	●	●	●	●	
559		セリ	●	●	●	●	●	●	
560		ヤブニンジン		●			●		
561		オヤブシラミ		●			●	●	
	118 科	561 種	160 種	317 種	380 種	366 種	418 種	507 種	

注 1) 学名、種名及び分類順は、主に「米倉浩司・梶田忠 (2003) 「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList), <http://ylist.info>」に従った。

注 2) 備考の項に表記した文字の意味は下記のとおりである。

帰：帰化植物。自然植生でなく、人間の媒介により本来の自生地から他の地域に移動し、新しい土地で繁殖した植物。

栽：観賞用などで明らかに植栽、栽培されている植物。本調査では、主に樹林地の主要構成種となっているものを記録した。

逸：植栽、栽培されたものが、他の場所に逸出し、繁殖した植物。

## イ. 植生の状況

現地調査の結果、調査地域に分布する植物群落（土地利用区分等を含む）を表 5-2-5-6 に示す 25 に区分した。

調査地域は千葉県の北西部に位置し、海老川や念田川が流れる低地が対象事業実施区域の中心部であり、東側には樹枝状に侵食された台地面が分布している。

低地は主に耕作地として利用されているが、対象事業実施区域や南側の調整池周辺はほとんどが休耕地となっており、現況では低茎の湿性植物が生育する放棄水田やセイタカアワダチソウ等の生育する外来草本群落、オギ群落、クズーカナムグラ群落等となっていた。調査地域北東部の台地斜面にはムクノキーエノキ群落やスダジイータブノキ群落等の樹林地が帯状に残存していた。東側の台地面や念田川の西側は主に畑地や市街地（緑の多い住宅地を含む）として利用されていた。河川沿いの土手には植栽樹群や帯状の樹林地、乾性草地等が分布しており、河川内にはヒメガマ、マコモ等の抽水植物群落等が点在していた。南側の調整池内はほぼヒメガマに覆われていた。

各群落の概況を表 5-2-5-7 に、現存植生図を図 5-2-5-3 に示す。

表 5-2-5-6 植物群落及び土地利用区分一覧と面積

No.	基本分類	植物群落及び 土地利用区分	自然度	対象事業施区域		調査地域（現況）	
				面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
1	常緑広葉樹林	スダジイータブノキ群落	8	-	-	0.25	0.2
2	落葉広葉樹林	ムクノキーエノキ群落	7	0.30	0.7	2.81	2.1
3		イヌシデーコナラ群落	7	0.00	0.0	0.27	0.2
4		ヌルデーアカメガシワ群落	6	0.25	0.6	0.66	0.5
5		ヤナギ低木群落	9	-	-	0.14	0.1
6	竹、ササ群落	竹林	3	0.03	0.1	1.14	0.8
7		アズマネザサ群落	5	0.05	0.1	0.36	0.3
8	湿性草本群落	ヨシ群落	5	1.06	2.5	1.59	1.2
9		ヒメガマ群落	5	0.07	0.2	1.88	1.4
10		マコモ群落	5	0.07	0.2	0.07	0.1
11		湿性低茎草本群落	4	4.06	9.6	6.69	4.9
12	沈水植物群落	ヤナギモ群落	10	-	-	0.03	0.0
13	乾性草本群落	オギ群落	5	1.67	3.9	4.25	3.1
14		チガヤ群落	4	0.68	1.6	0.98	0.7
15		乾性低茎草本群落	4	3.14	7.4	6.42	4.7
16		クズーカナムグラ群落	4	2.67	6.3	4.31	3.2
17	外来草本群落	外来草本群落	2	5.66	13.4	10.43	7.7
18	その他土地利用	植栽樹群	3	0.55	1.3	2.12	1.6
19		果樹園	3	0.15	0.3	0.33	0.2
20		水田雑草群落	2	0.72	1.7	0.87	0.6
21		畑地雑草群落	2	4.99	11.9	32.70	24.0
22		公園、グラウンド	2	0.04	0.1	1.46	1.1
23		緑の多い住宅地	2	1.02	2.7	10.54	7.7
24		市街地等	1	14.11	33.1	44.27	32.5
25	開放水域	開放水域	-	1.02	2.4	1.61	1.2
-	合計		-	42.30	100.0	136.17	100.0

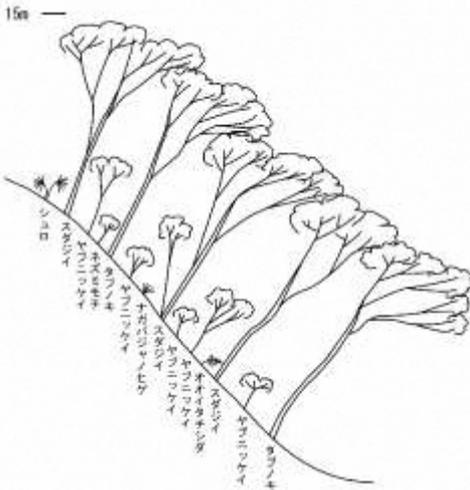
注) 面積及び比率は、四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。

表 5-2-5-7(1) 群落の概況

●スダジイタブノキ群落 (No.1)

本群落は常緑広葉樹のスダジイやタブノキが優占する高木林であり、調査地域では、南向きの台地斜面の一部に小規模な群落が分布していた。

植生調査地点では、高木層に胸高直径 20cm~40cm のスダジイとタブノキが優占し、群落高は 16mに達していた。下層にはヤブニッケイ、ネズミモチ、モチノキ、シロダモ、アオキ等の常緑広葉樹が生育し、亜高木層の植被率は 20%、低木層の植被率は 40%であった。草本層の植被率は 5%と低く、シロダモ、ナガバジャノヒゲ、シュロ、オオイタチシダ、ヤブニッケイ等の常緑植物が多く生育していた。



植生断面図

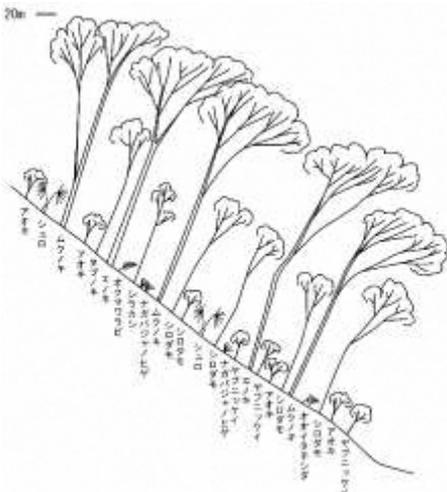


植生群落の状況写真

●ムクノキエノキ群落 (No.2)

本群落は落葉広葉樹のムクノキやエノキが優占する高木林であり、調査地域では、台地斜面に広く分布していた。ムクノキ、エノキが優占する屋敷林や飯山満川沿いの若齢林も本群落に含めた。

植生調査地点では、高木層に胸高直径 40cm 前後のムクノキとエノキが優占し、タブノキ、ミズキ等が混生しており、群落高は 20mに達していた。亜高木層は高さ 10m程度で、植被率は 70~80%と高く、シロダモ、タブノキ、ヤブニッケイ等のクスノキ科である常緑広葉樹の生育が目立っていた。低木層は高さ 3mで植被率は 50%前後であり、ヤブニッケイ、アオキ、シロダモ、シュロ等が生育していた。草本層の植被率は 3%程度と低く、ナガバジャノヒゲ、オクマワラビ、シロダモ等がまばらに生育していた。



植生断面図



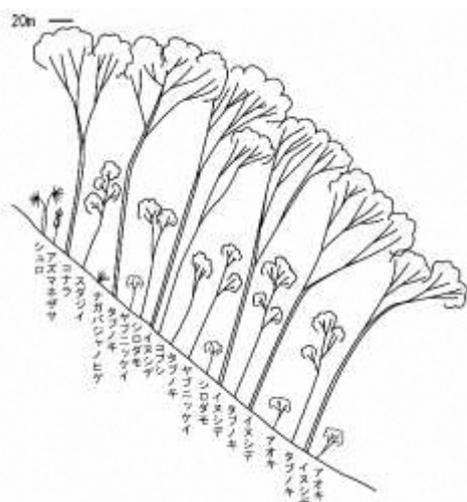
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(2) 群落の概況

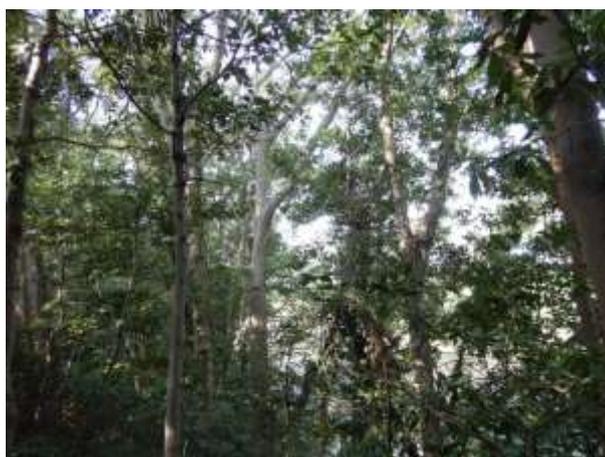
●イヌシデーコナラ群落 (No.3)

本群落は落葉広葉樹のイヌシデーコナラが優占する高木林であり、調査地域では、北向きの台地斜面の一部に小規模な群落が分布していた。

植生調査地点では、高木層に胸高直径 30cm~40cm のイヌシデーが優占し、コナラやタブノキが混生しており、群落高は 21mに達していた。亜高木層は高さ 12mに達し、植被率は 60%と高く、シロダモ、タブノキ、ヤブニッケイ、ヒサカキ等の常緑広葉樹の生育が目立っていた。低木層は高さ 3mで植被率は 40%であり、アオキ、シロダモ、ヤブニッケイ、シラカシ等が生育していた。草本層の植被率は 5%程度と低く、ナガバジャノヒゲ、フジ、シロダモ、キヅタ等がまばらに生育していた。林冠はイヌシデーが優占するが、下層の生育種はムクノキーエノキ群落とほとんど変わらなかった。



植生断面図

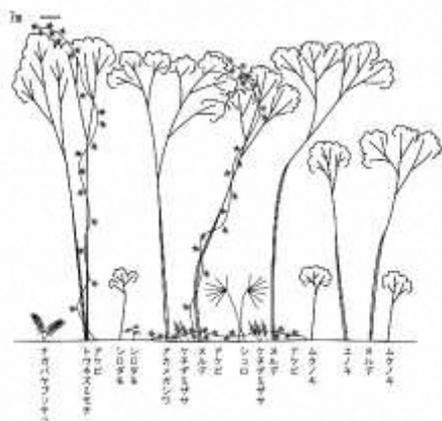


植生群落の状況写真

●ヌルデーアカメガシワ群落 (No.4)

本群落はヌルデーアカメガシワ等の陽地生の樹木が優占する低木林であり、エノキ、ムクノキ、トウネズミモチが生育する低木林も本群落に含めた。調査地域では、念田川沿いの土手や農耕地、空地等に小規模な群落が点在していた。

植生調査地点では、低木層にヌルデーアカメガシワ、ムクノキ、エノキ、トウネズミモチ等が生育し、群落高は 7mに達していた。草本層は植被率 40%でアケビ、キヅタ等のツル植物が目立っていた他、ケチヂミザサ、シロダモ、マンリョウ等が生育していた。



植生断面図



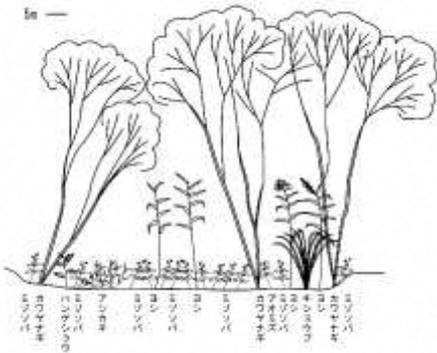
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(3) 群落の概況

●ヤナギ低木群落 (No.5)

本群落はヤナギ類が優占する低木林であり、調査地域では、飯山満川より南側の放棄水田や調整池の水際等に小規模な群落が分布していた。

植生調査地点では、低木層にカワヤナギやタチヤナギ等のヤナギ類が優占し、群落高は 5mに達していた。草本層は2層に分かれ、第1層にヨシの生育が多くみられ、第2層にミゾソバが優占し、アシカキ、アオミズ、セリ、イヌスギナ、ハンゲショウ等が混生していた。



植生断面図

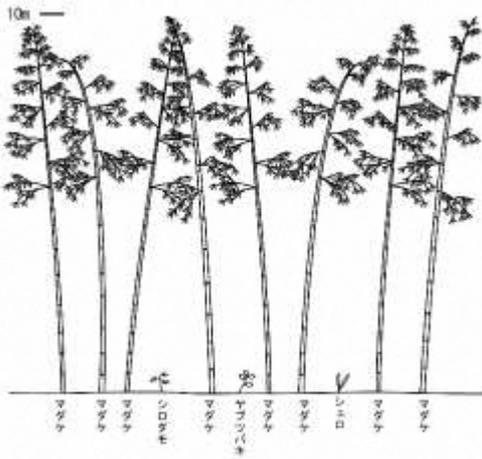


植生群落の状況写真

●竹林 (No.6)

本群落はマダケやモウソウチク等のタケ類が優占する高木林であり、調査地域では、市街地周辺の斜面などに分布していた。

植生調査地点では、高木層にマダケが優占し、群落高は 10mに達していた。亜高木層、低木層は発達せず、草本層の植被率は 1%程度で生育種はほとんど無く、ヤブカラシ、ヤブツバキ、シロダモ等がわずかに生育していた。



植生断面図



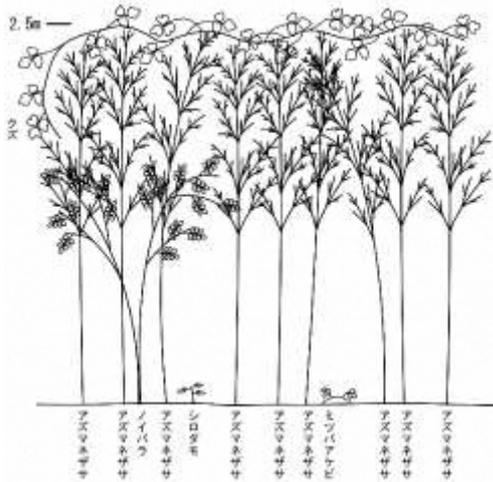
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(4) 群落の概況

●アズマネザサ群落 (No.7)

本群落は主にササ類のアズマネザサが優占する群落であり、メダケ優占群落も本群落に含めた。調査地域では、耕作地帯や道路脇の土手などに小規模な群落が点在していた。

植生調査地点では、低木層にアズマネザサやメダケが密生し、群落高は2.5~4mに達していた。クズやフジ等のツル植物が上部を覆っている場所もみられた。草本層は植被率1%程度と貧弱で、ヤブカラシ、ミツアケビ等のツル植物やシロダモ、アオキ等がわずかに生育する程度であった。



植生断面図

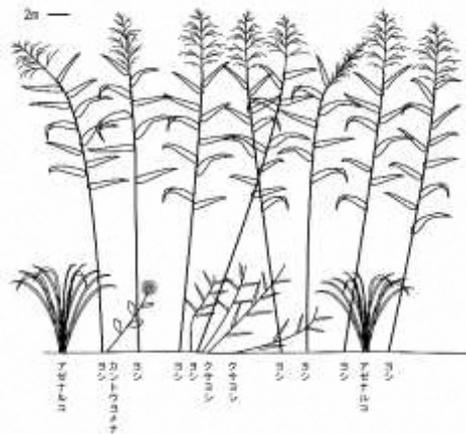


植生群落の状況写真

●ヨシ群落 (No.8)

本群落は大型の抽水植物であるヨシが優占する群落であり、調査地域では、放棄水田や耕作地としての利用が難しい角地などに小規模な群落が点在していた。

植生調査地点では、群落高は2mで2層構造となっており、第1層にはヨシが密生し、第2層にはアゼナルコ、クサヨシ、カントウヨメナ、セリ等の湿生植物が生育していた。



植生断面図



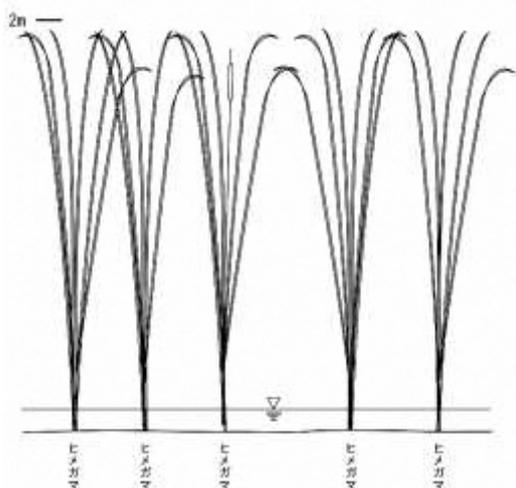
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(5) 群落の概況

●ヒメガマ群落 (No.9)

本群落は大型の抽水植物であるヒメガマが優占する群落であり、調査地域では、飯山満川と南側の調整池に分布しており、調整池内は、ほとんどヒメガマ群落に覆われていた。

植生調査地点では、植被率は70~90%で高さ2.2mに達しており、生育種はヒメガマのみであった。



植生断面図

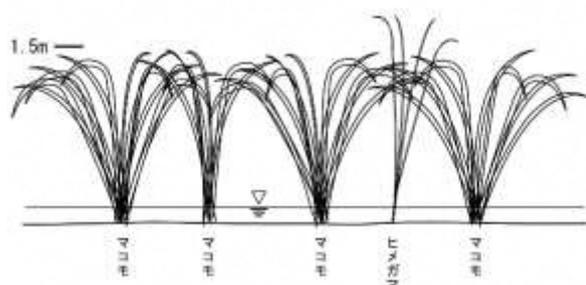


植生群落の状況写真

●マコモ群落 (No.10)

本群落は大型の抽水植物であるマコモが優占する群落であり、調査地域では、飯山満川に小規模な群落が分布していた。

植生調査地点では、植被率90%で高さ1.5mに達しており、ヒメガマが混生していた。



植生断面図



植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(6) 群落の概況

●湿性低茎草本群落 (No.11)

本群落は高さ 1m以下の草丈の低い湿性草本が優占する群落であり、調査地域では、対象事業実施区域の飯山満川周辺や北部の海老川周辺などに分布していた。ほとんどは放棄水田であるが、一部に河川の泥堆積地上に分布する群落もみられた。

植生調査地点では、高さ 0.2~0.9mであり、植被率は 90%前後と高く、イヌビエ、タマガヤツリ、アメリカタカサブロウ、イボクサ、アメリカキカシグサ、カワラスガナ、ヒメクグ、セリ、イヌスギナ、ヒレタゴボウ等が混生する一年草を主体とした群落が多かったが、アシカキやキシユウスズメノヒエ、サンカクイやコガマ等の多年草が優占する群落もみられた。湿ったチガヤ草地も本群落に含めた。



植生断面図

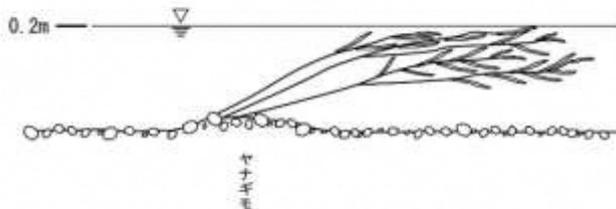


植生群落の状況写真

●ヤナギモ群落 (No.12)

本群落はヤナギモが優占する沈水植物群落で、調査地域では、北谷津川に小規模な群落が分布していた。

植生調査地点では、水深 20cm 程度の礫混じりの河川にみられ、生育種はヤナギモのみであり、植被率は 40%程度であった。



植生断面図



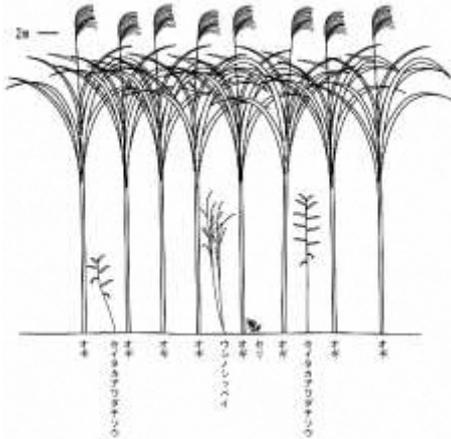
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(7) 群落の概況

●オギ群落 (No.13)

本群落は大型のイネ科植物のオギが優占する群落であり、調査地域では、南側の調整池周辺と対象事業実施区域北側に広く分布していた。

植生調査地点では、高さ 2.5m 前後に達し、2 層構造になっていた。第 1 層にはオギが密生し、第 2 層の植生率は 10% 以下と低く、セイタカアワダチソウ、ウシノシッペイ、セリ、ナガバギシギシ等の植物がまばらに生育していた。



植生断面図

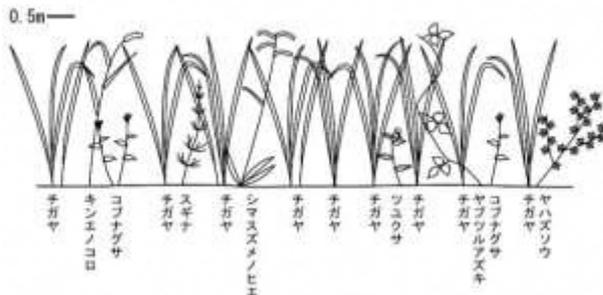


植生群落の状況写真

●チガヤ群落 (No.14)

本群落は低茎のイネ科植物であるチガヤが優占する群落で、調査地域では、低地の耕作地帯に広く点在していた。

植生調査地点では、高さは 0.4m 程度で、ツユクサ、ヤブツルアズキ、シマスズメノヒエ、コブナグサ、メヒシバ、ヒメジョオン、オオヂシバリ、セイタカアワダチソウ等が混生していた。



植生断面図



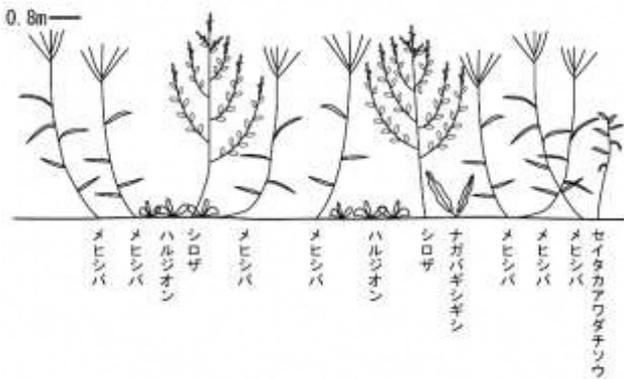
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(8) 群落の概況

●乾性低茎草本群落 (No.15)

本群落は高さ 1m以下の草丈の低い乾性草本が優占する群落であり、放棄畑や空地雑草群落のうち、草丈の低い群落を本凡例にまとめた。調査地域では、耕作地から市街地にかけて広範囲に分布していた。

植生調査地点では、高さは0.3~0.8m、植被率は60~80%であり、メヒシバ、ツユクサ、エノキグサ、スギナ、シロザ、アキノエノコログサ、オオニシキソウ、コスズメガヤ、シマスズメノヒエ等が生育していた。



植生断面図

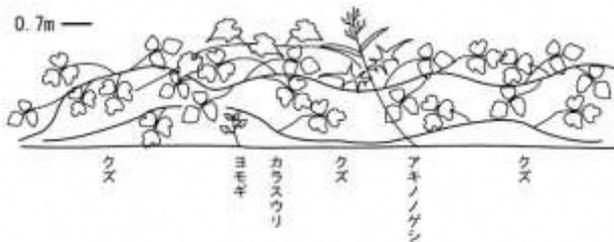


植生群落の状況写真

●クズーカナムグラ群落 (No.16)

本群落は、多年草のクズ又は一年草のカナムグラが優占するツル植物群落で、調査地域では、対象事業実施区域北側の谷戸や南側の調整池周辺などに多く分布していた。

植生調査地点では、高さは0.7m程度で、他の生育種は少なくスギナ、ツユクサ、ヤブカラシ、カラスウリ、セイタカアワダチソウ、アキノノゲシ等がまばらに生育していた



植生断面図



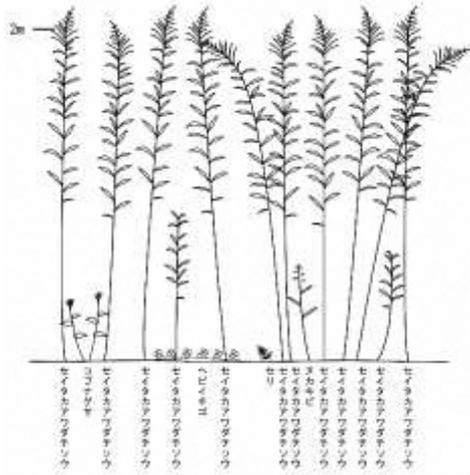
植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(9) 群落の概況

●外来草本群落 (No.17)

本群落はセイタカアワダチソウ、オオブタクサ、オオアレチノギク等の大型で草丈の高い外来草本が優占する群落で、ほとんどはセイタカアワダチソウの優占群落であった。調査地域では、対象事業実施区域の飯山満川より北側の耕作放棄地と南側の調整池周辺に広く分布していた。

植生調査地点のうち、セイタカアワダチソウ群落では、群落高が 2m 前後で、2 層構造になっており、第 1 層にセイタカアワダチソウが密生し、第 2 層にはセイタカアワダチソウ、ヤブツルアズキ、ハルジオン、ツユクサ、コセンダングサ、セリ等が生育していた



植生断面図

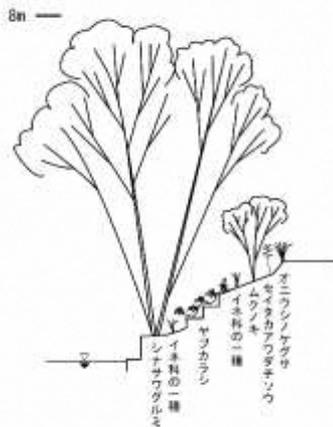


植生群落の状況写真

●植栽樹群 (No.18)

植栽起源の樹木群であり、調査地域では、念田川沿いの河岸斜面や市街地周辺などに分布していた。

植生調査地点では、群落高は 8m に達し、シナサワグルミが優占していた。低木層は 2.5m でムクノキ、エノキ、トウネズミモチ等が生育していた。草本層は植被率 40% でヤブカラシ、セイタカアワダチソウ、ナガバギシギシ、ヨモギ、ヤブマオ、イヌワラビ等が生育していた。



植生断面図

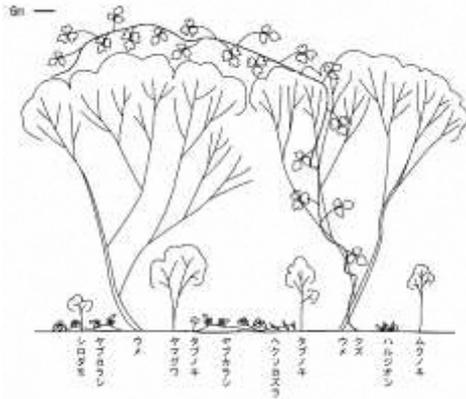


植生群落の状況写真

表 5-2-5-7(10) 群落の概況

●果樹園 (No.19)

果樹が栽培された樹木群である。調査地域に果樹園はほとんど無く、耕作地や市街地に点在していた。植生調査地点では、群落高は6m程度であり、ウメが植栽されていた。低木層は植被率15%程度でタブノキ、アオキ等の常緑広葉樹やムクノキ、ヤマグワ等の陽樹が生育していた。草本層は植被率40%程度で、ヤブカラシ、カラスウリ、ヘクソカズラ等のツル植物が多く、ほかにタブノキ、ムクノキ、ヒナタイノコズチ、ジャノヒゲ等が生育していた。



植生断面図

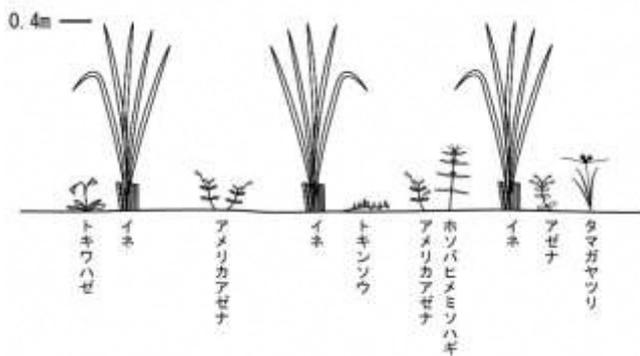


植生群落の状況写真

●水田雑草群落 (No.20)

水田耕作地にみられる背丈の低い草本群落である。調査地域では、ほとんど耕作放棄されており、耕作中の水田はほとんど無く、数箇所にと点在する程度であった。

植生調査地点では、第1層にイネが生育し、第2層は高さ0.1m、植被率40%程度でトキンソウ、アメリカアゼナ、スカシタゴボウ、タマガヤツリ、ホソバヒメミソハギ、イヌホタルイ、メヒシバ等の一年草が生育していた。



植生断面図



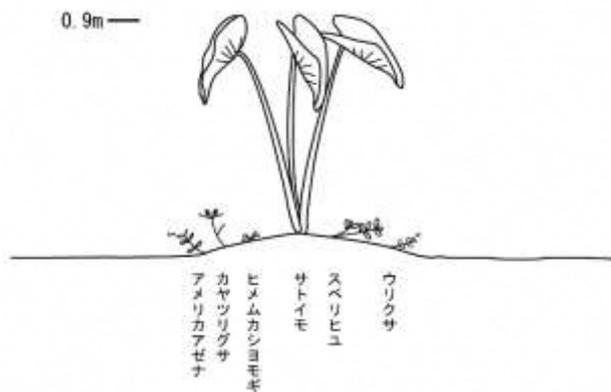
植生群落の状況写真

### 表 5-2-5-7(11) 群落の概況

#### ●畑地雑草群落 (No.21)

畑地にみられる背丈の低い草本群落であり、調査地域では、広範囲に分布していた。

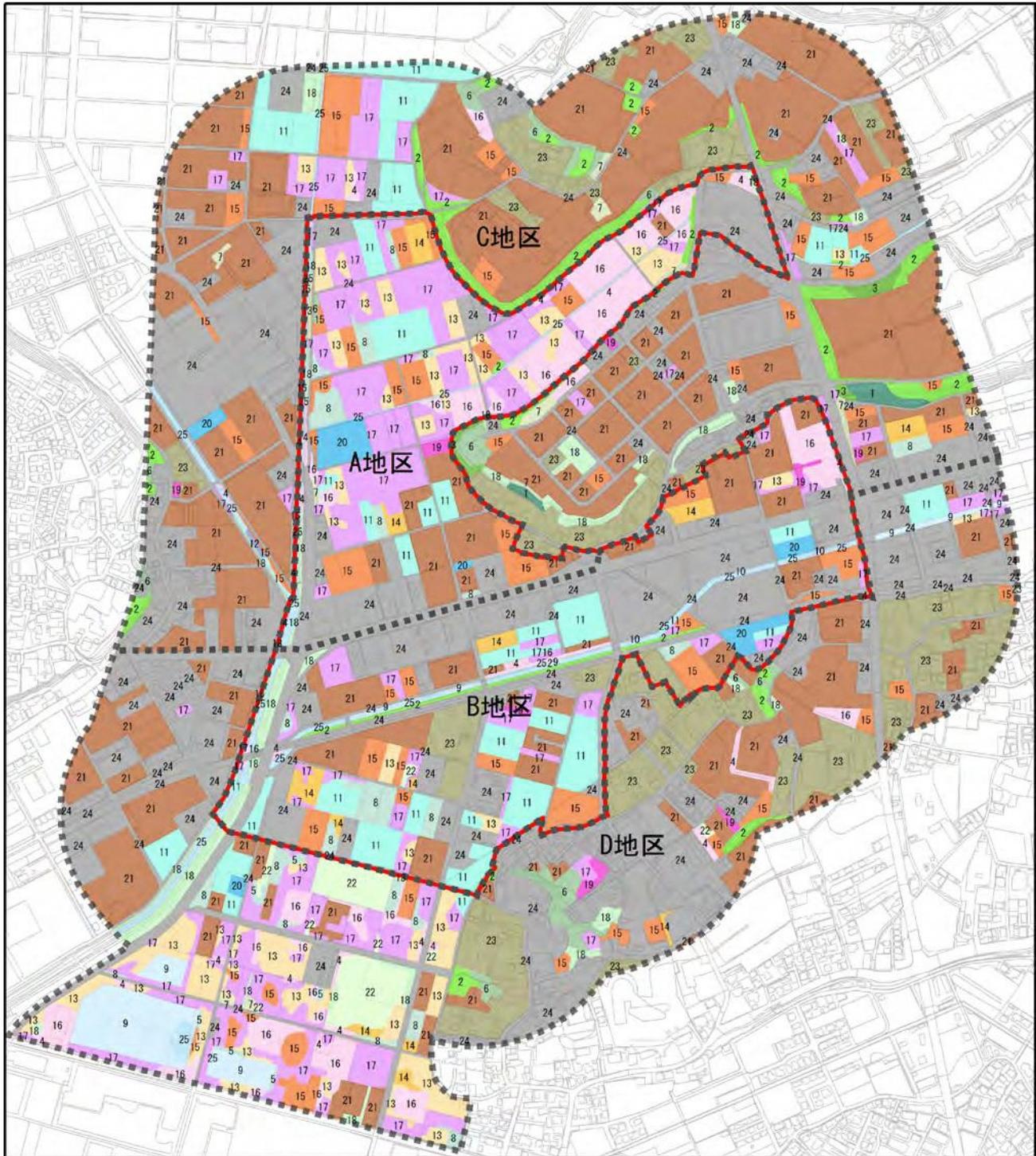
植生調査地点では、第1層にサトイモ等の農作物が生育し、第2層は高さ0.1m、植被率20%程度で、アメリカアゼナ、トキンソウ、スベリヒユ、ウリクサ、クワクサ、カヤツリグサ等の一年草が生育していた。



植生断面図



植生群落の状況写真



凡例



: 対象事業実施区域



: 調査地域

植生凡例

- |                 |                |              |
|-----------------|----------------|--------------|
| 1. スダジータブノキ群落   | 11. 湿性低茎草本群落   | 21. 畑地雑草群落   |
| 2. ムクノキ-エノキ群落   | 12. ヤナギモ群落     | 22. 公園、グラウンド |
| 3. イヌシデーコナラ群落   | 13. オギ群落       | 23. 緑の多い住宅地  |
| 4. ヌルデアアカマガシワ群落 | 14. チガヤ群落      | 24. 市街地等     |
| 5. ヤナギ低木群落      | 15. 乾性低茎草本群落   | 25. 開放水域     |
| 6. 竹林           | 16. ワズーカナムグラ群落 |              |
| 7. アズマネザサ群落     | 17. 外来草本群落     |              |
| 8. ヨシ群落         | 18. 植栽樹群       |              |
| 9. ヒメガマ群落       | 19. 果樹園        |              |
| 10. マコモ群落       | 20. 水田雑草群落     |              |



1:8,000

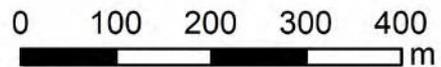


図 5-2-5-3 現存植生図

※この図は船橋市提供の「平成 28 年船橋市都市計画基礎調査図」を加工して作成した。

ウ. 重要な種の状況

重要な植物は表 3-1-12-2 (P. 65~67) に示す選定基準に基づき抽出した。その結果、表 5-2-5-8 に示す 9 科 10 種の重要な植物が確認された。

確認状況等を表 5-2-5-9 に示す。

表 5-2-5-8 重要な植物一覧

No.	科名	種名	調査地域		選定基準			
			対象事業 実施区域	周辺区域	①	②	③	④
1	サトイモ	コウキクサ		●				B
2	ヒルムシロ	ヤギモ	●	●				D
3	ミクリ	オミクリ	●	●			VU	B
4		ミクリ属の一種	●				NT	B, D
5	スガリ	ヤブサンザシ		●				B
6	タコノアシ	タコノアシ	●				NT	
7	アカバナ	ウスゲ <sup>レ</sup> チョウジ <sup>レ</sup> タテ <sup>レ</sup>	●	●			NT	
8	クミ	オニグルミ	●	●				D
9	カバノキ	ハシハミ		●				D
10	オオバコ	カヂ <sup>レ</sup> シヤ <sup>レ</sup>	●	●			NT	
	9 科	10 種	7 種	8 種	0 種	0 種	5 種	7 種

注1) 種名及び分類等は「BG Plants 和名-学名インデックス (米倉・梶田 2003) に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年、法律 214)により定められた種 (特別天然記念物, 天然記念物)
- ② 「絶滅のおそれのある野生生物の種の保存法に関する法律」(平成 4 年、法律 75)により定められた種
- ③ 「環境省レッドリスト (植物)」(平成 31 年、環境省)の記載種  
VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧
- ④ 「千葉県レッドリスト植物編」(平成 29 年、千葉県)の記載種  
B: 重要保護生物 D: 一般保護生物

表 5-2-5-9(1) 重要な植物の確認状況等

種名	内容		
コウキクサ	現地	確認状況及び生育環境	夏季調査時に周辺区域の水深 3cm 程度の素掘水路において、約 1m×20m の範囲に散在して生育する本種を確認した。
	資料	一般生態	湖沼、水田、ハス田等に群生する常緑の浮遊植物。葉状体は広楕円形で、やや厚みがあり、葉脈（3 脈）は不明瞭。長さ 3～4.5mm、幅 2～3.5mm、裏面は淡緑色の場合と赤紫色の着色がみられる場合がある。根は長さ 3～8cm。根鞘基部に翼はない。
		国内分布	北海道、本州、四国、九州。
		千葉県内分布	北総のため池や水路などにまれに生育する。
	写真		
	ヤナギモ	現地	確認状況及び生育環境
資料		一般生態	河川や水路などの流水域、稀にため池などにも生育する常緑多年生の沈水植物。葉は無柄、線形で鋭尖頭、しばしば茎側に湾曲する。長さ 5～12（～16）cm、幅（1.5～）2～5cm、全縁で 5 脈以上ある。花期は 5～9 月。花茎の長さ 2～5cm、花穂の長さ 6～12mm、密花。4 心皮。
		国内分布	北海道、本州、四国、九州。
		千葉県内分布	東京湾岸の湾奥部地域や北総地域に生育する。
写真			

表 5-2-5-9 (2) 重要な植物の確認状況等

種名	内容	
オオミクリ	現地	確認状況及び生育環境 夏季調査時に対象事業実施区域及び周辺区域の主に放棄水田や素掘水路において確認した。確認地点は9地点であり、各地点の生育面積は2~560 m <sup>2</sup> で密度は地点により様々である。一部個体で花序を確認した。
	資料	一般生態 湖沼やため池、河川や水路に生育する多年生の抽水植物。形態的特徴はミクリとよく似ているが、果実が幅広く、長さ5~9mm、幅5~8mm、紡錘形にならず上部は低いドーム状である。また、地下部に木質の「塊茎」を作ることは他種にはない特異な形質である。
		国内分布 本州、四国。
		千葉県内分布 ミクリと混同されていることも多いが、成田市、旧横芝町、茂原市、長生村などでの生育が明らかになっている。
	写真	
ミクリ属の一種	現地	確認状況及び生育環境 夏季調査時に対象事業実施区域の河川、用水路の2地点で確認した。生育面積は5 m <sup>2</sup> と18 m <sup>2</sup> で、いずれも群生していた。
	資料	一般生態 オオミクリかミクリの可能性はあるが、花序や塊茎などの形質を確認できなかったため、ミクリ属の一種とした。
		国内分布 オオミクリは上記参照。ミクリはオオミクリより分布が広域であり、北海道、本州、四国、九州。
		千葉県内分布 オオミクリは上記参照。ミクリは県内各地の河川や池沼の岸辺に普通にみられたが、現在は谷津奥のため池や水路、斜面下の湿所などに点在する程度に減少している。
	写真	

表 5-2-5-9(3) 重要な植物の確認状況等

種名	内容		
ヤブサンザシ	現地	確認状況及び生育環境	早春調査時に周辺区域の崖線下の林縁部や植栽樹林地の縁において9個体を確認した。早春時には開花を確認した。
	資料	一般生態	高さ約1mに達する夏緑の低木。夏緑林あるいはその林縁に生育する。雌雄異株。葉は互生、浅く3裂又は5裂し、鋭頭。花期は4~5月。枝先に散形花序を付ける。花は5数性で花弁は黄緑色。
		国内分布	本州、四国、九州。
		千葉県内分布	船橋市と八千代市に遺存的にわずかに生育する。
	写真		
タコノアシ	現地	確認状況及び生育環境	春季調査時に対象事業実施区域のヨシが優占する放棄水田において9個体を確認した。
	資料	一般生態	高さ50~90cmの多年草。走出枝があり、そこから不定根を出す。葉は互生し、長楕円形で鋭頭、細鋸齒縁、表の主脈は白く抜ける。花期は8~10月。花序は頂端まれに上部の葉腋から生じ、2~5本の単出集散花序が伸びる。花弁は通常ない。種子は多数。
		国内分布	北海道、本州、四国、九州。
		千葉県内分布	各地の休耕田や湿地など止水環境に比較的普通にみられる。
	写真		

表 5-2-5-9(4) 重要な植物の確認状況等

種名	内容		
ウスゲチヨウ ジタデ	現地 確認状況及び 生育環境	夏季及び秋季調査時に対象事業実施区域及び周辺区域の主に 放棄水田や素掘水路において多数個体（合計で約 3600 個体）を 確認した。ほとんどの地点で開花や結実がみられた。	
	資料	一般生態	高さ 25～90cm の一年草。全体に細かい伏毛が生える。葉身は長 楕円形で鈍頭、基部はくさび形で、葉柄に移行する。花期は 7 ～11 月。花は通常 5 数性。萼片は狭三角形で、長さ約 3mm。
		国内分布	本州（関東以西）、九州。
		千葉県内分布	主として平地にある水田や湿地に生育する。
	写真		
	オニグルミ	現地 確認状況及び 生育環境	夏季及び秋季調査時に対象事業実施区域及び周辺区域で、建物 の脇と耕作地脇の緩斜面において 2 個体を確認した。樹高はそ れぞれ、約 8m と約 4m であり、2 個体とも結実を確認した。
資料		一般生態	夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。風媒で、重力散布。河川中流 域の川岸に多く、下流域にもみられる。
		国内分布	北海道、本州、四国、九州。
		千葉県内分布	県内では利根川水系に多い。記録地点は多いが、大部分は植栽 株などからの逸出と考えられる。保護対象は自生と認められる ものに限る。
写真			

表 5-2-5-9 (5) 重要な植物の確認状況等

種名	内容		
ハシバミ	現地	確認状況及び生育環境	春季調査時に周辺区域の斜面下部の林縁において8個体を確認した。確認地は2地点で、いずれの地点においても草刈りが実施されているため、樹高は0.5m前後と低かった。
	資料	一般生態	夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。
		国内分布	北海道、本州、九州。
		千葉県内分布	下総台地の谷沿いにみられ、谷津の水田の周辺などにみられ、刈られていることが多く、大きな個体は稀である。
	写真		
カワヂシャ	現地	確認状況及び生育環境	早春季及び春季調査時に、対象事業実施区域及び周辺区域の放棄水田や用水路内の砂泥堆積地等において多数個体（約481個体）を確認した。多くの株で開花を確認した。
	資料	一般生態	主に河川や水路、水田などに生育する越年生の抽水～湿生植物。高さ30～90cm。葉は無柄でやや茎を抱く。葉身は長披針形で先はやや尖り、長さ2.5～8cm。幅0.5～2.5cm、縁には明瞭な鋸歯がある。花期は4～6月。長さ5～15cmの花序に直径4mm前後の白い花をつける。
		国内分布	本州、四国、九州、琉球。
		千葉県内分布	溝、川岸、湿田などに生え、水路などでは完全な水中形もみられる。
	写真		

出典：「千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物・菌類編」（2009：千葉県）  
 「千葉県の自然史」（2003：千葉県）

エ. 重要な群落の状況

調査の結果、調査地域において重要な植物群落は確認されなかった。

オ. 植生自然度の状況

植生調査結果により調査地域の植生自然度を整理した結果を、表 5-2-5-10 及び図 5-2-5-4 に示す。なお、植生自然度は主に「1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」（平成 28 年、環境省）に従い区分した。

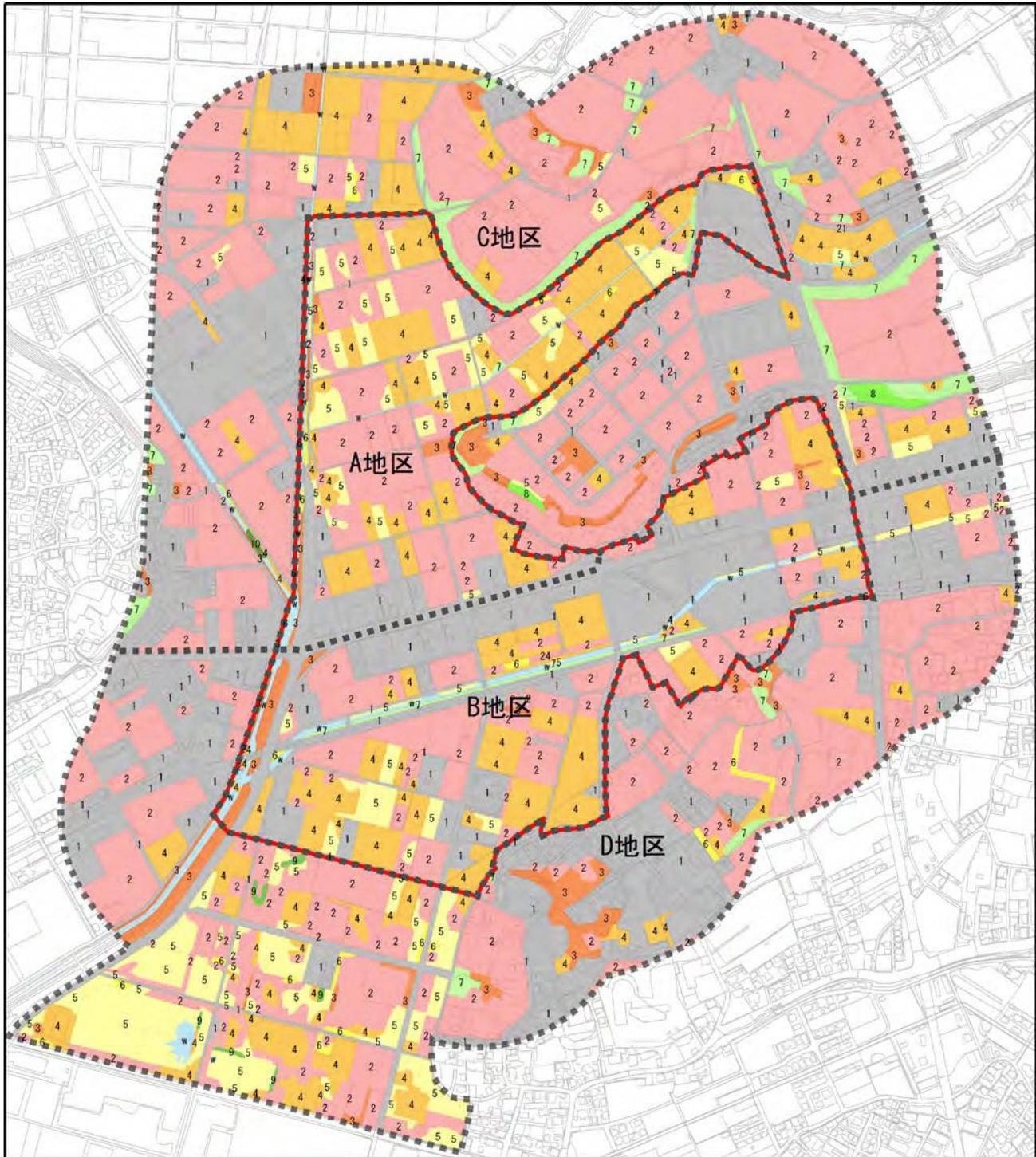
対象事業実施区域は植生自然度 1～5 までの植生にほぼ占められており、二次草原、外来種草原、市街地等で 90%以上を占めていた。

調査地域でも、植生自然度 1～5 までの植生でほぼ占められており、植生自然度が高い植生は台地斜面の二次林や低地のヤナギ低木林等としてわずかにみられる程度であった。

表 5-2-5-10 植生自然度

植生自然度			対象事業実施区域		調査地域	
自然度	区分内容	区分基準	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
10	自然草原	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区	-	-	0.03	0.05 未満
9	自然林	エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区	-	-	0.14	0.1
8	二次林 (自然林に近いもの)	ブナーミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区	-	-	0.25	0.2
7	二次林	クリーミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区	0.31	0.7	3.08	2.3
6	植林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林	0.25	0.6	0.66	0.5
5	二次草原 (背の高い草原)	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原	2.91	6.9	8.15	6.0
4	二次草原 (背の低い草原)	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄雑草群落	10.55	24.9	18.40	13.5
3	外来種植林 農耕地 (樹園地)	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	0.72	1.7	3.60	2.6
2	外来種草原 農耕地 (水田・畑)	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地	12.43	29.4	55.99	41.1
1	市街地等	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区	14.11	33.4	44.27	32.5
w	開放水域	河川、水路、湖沼、ため池等の水域	1.02	2.4	1.61	1.2
合計			42.30	100.0	136.17	100.0

注) 面積及び比率は、四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。



凡例



: 対象事業実施区域



: 調査地域

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| 植生自然度10 | 植生自然度5 | 開放水域 w |
| 植生自然度9  | 植生自然度4 |        |
| 植生自然度8  | 植生自然度3 |        |
| 植生自然度7  | 植生自然度2 |        |
| 植生自然度6  | 植生自然度1 |        |



1:8,000

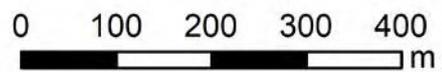


図 5-2-5-4 植生自然度図

※この図は船橋市提供の「平成 28 年船橋市都市計画基礎調査図」を加工して作成した。

## 2. 予測

### (1) 予測地域・地点

予測地域及び地点は、現地調査の調査地域と同様とした。

### (2) 予測項目

植物に係る予測項目は、以下のとおりとした。

- ① 植物相の変化
- ② 重要な種及び地域の特性を把握する上で注目される種の生育状況の変化
- ③ 植物群落の変化
- ④ 植生自然度の変化

### (3) 予測の基本的な手法

各予測項目について、地形や土壌の改変予定図と、現存植生図、重要な種の分布図等を比較、勘案し、本事業による直接的な植物への影響を予測した。さらに、本事業による直接的な影響の他に、間接的な影響についても予測した。

### (4) 予測結果の整理及び解析

予測した結果は、事業実施前後の対比表を作成するなどにより整理、解析した。

### (5) 予測対象時期

予測対象時期は、施行時（造成等の工事の実施による影響が最大になる時期）及び供用時とした。

(6) 予測結果

① 植物相の変化

造成等の工事により、対象事業実施区域の植物の多くは消失すると考えられる。対象事業実施区域の植生は耕作放棄地や市街地がほとんどであり、生育種は路傍雑草や帰化植物等が多く、周辺区域にも同様な環境が広がっている。一方、改変地は元々、水田耕作地が多い地域であったと考えられ、現況においても放棄水田や素掘水路には湿地性の植物が生育している。周辺に同様な環境はあるものの、市街地化により湿地環境は減少しており、湿性植物に対する影響があると考えられる。

対象事業実施区域に樹林地はほとんど無いが、北側の谷津には対象事業実施区域に隣接する帯状の斜面林があり、斜面林の林縁部は一部が直接改変を受け、消失する。また、改変を受けない部分においても林縁部に生育する植物への影響が考えられる。

海老川や念田川は本事業計画内では改変の予定はないため、現状が維持されるものと考えられる。一方、飯山満川については付け替え工事が実施される予定であるため、飯山満川及び海老川との合流点付近は影響を受けるものと考えられる。施工時に濁水等が河川に流入した場合は、ヤナギモ等の沈水植物や水生植物に影響を及ぼす可能性がある。

② 重要な種及び地域の特性を把握する上で注目される種の生育状況の変化

重要な種の確認状況は表 5-2-5-11 に示すとおりである。また、これらを踏まえ重要な種に対する事業の影響を予測した結果を表 5-2-5-12 に示す。予測の結果、オオオミクリ（ミクリ属の一種を含む）、ヤブサンザシ、タコノアシ、ウスゲチョウジタデ、ハシバミ、カワヂシャの 6 種について保全対策が必要と考えられる。

表 5-2-5-11 重要な種の確認状況

種名	ランク	対象事業 実施区域		周辺区域		全体		改変率 (%)
		個体数	面積 (m <sup>2</sup> )	個体数	面積 (m <sup>2</sup> )	個体数	面積 (m <sup>2</sup> )	
コウキクサ	県 B	-	-	-	20	-	20	0.0
ヤナギモ	県 D	-	4	-	271.5	-	275.5	1.5
オオミクリ (ミクリ属の一種を含む)	県 B, D	-	873	-	65	-	938	93.1
ヤブサンザシ	県 B	8	-	1	-	9	-	88.9
タコノアシ	国 NT	9	-	0	-	9	-	100.0
ウスゲチョウジタデ	国 NT	2709	-	888	-	3597	-	75.3
オニグルミ	県 D	1	-	1	-	2	-	50.0
ハシバミ	県 D	7	-	1	-	8	-	87.5
カワヂシャ	国 NT	367	-	114	-	481	-	76.3
合計		3102	877	1004	356.5	4106	1233.5	

注 1) ヤナギモ、オオミクリ（ミクリ属の一種を含む）、カワヂシャの「対象事業実施区域」の確認地点のうち、河川内の確認地点は「周辺区域」に含む。

注 2) 改変率のうち、水生植物（コウキクサ、ヤナギモ）は面積、その他は個体数で算出した。

表 5-2-5-12 重要な種の予測結果

種名	生育環境	保全の必要性	予測結果
コウキクサ	湖沼、水田、ハス田	×	対象事業実施区域では生育が確認されていないため、事業による影響はないものと予測される。
ヤナギモ	河川、ため池	×	本種の主な生育地は北谷津川であり、確認面積全体に占める改変率は1.5%程度であるため、事業による影響はないものと予測される。
オオミクリ (ミクリ属の一種を含む)	小沼、ため池、河川	○	周辺区域にも生育しているが、確認面積全体に占める改変率は90%以上と高く、県のランクも高いため、事業による影響は大きいと予測される。
ヤブサンザシ	落葉樹林、林縁	○	確認個体数が少なく、ほとんどが対象事業実施区域に生育している。また、本種は県内の船橋市や八千代市等の北総の一部の地域に確認が限られているため、事業による影響は大きいと予測される。
タコノアシ	休耕田、湿地	○	すべての個体が対象事業実施区域で確認されているため、事業による影響は大きいと予測される。
ウスゲチョウジタデ	休耕田、湿地	○	対象事業実施区域だけでなく、周辺区域においても多数の生育数が確認されている。確認面積全体に占める改変率は約75%と比較的高く、事業による影響は大きいと予測される。
オニグルミ	河岸	×	対象事業実施区域と周辺区域で1本ずつ、確認されている。千葉県レッドデータブックにおいては大部分が逸出であると記述されており、確認個体も逸出の可能性が高いと考えられるため、事業による影響は無いものと予測される。
ハシバミ	水田周辺の林縁	○	確認個体数が少なく、ほとんどが対象事業実施区域に生育しているため、事業による影響は大きいと予測される。
カワヂシャ	河川、湿地、水路	○	対象事業実施区域だけでなく、周辺区域においても多数の生息数が確認されている。確認面積全体に占める改変率は約75%と比較的高く、事業による影響は大きいと予測される。

注) ○：高い、×：低い

### ③ 植物群落の変化

現存植生図と事業計画を重ね合わせた結果を表5-2-5-13に示す。

供用時は、対象事業実施区域の市街地は33%から82.8%、開放水域は2.4%から14.1%、公園、グラウンドは0.1%から3.1%に増加する。一方、現況で確認された外来草本群落(13.4%)、畑地雑草群落(11.8%)、湿性低茎草本群落(9.6%)、乾性低茎草本群落(7.4%)などの植物群落は全て消失し0%となる。

調査地域全体でみると対象事業実施区域の樹林は面積が少なく、周辺区域に多くが存在すること、消失する草地のうち外来草本群落の面積が最も多いこと、湿性草本群落、沈水植物群落等の自然度の比較的高い群落のうち周辺区域に存在するものはそのまま残存することから、事業が植物群落の構成に与える影響は少ないと考えられる。

表 5-2-5-13 植物群落及び土地利用区分一覧及び面積

No.	基本分類	植物群落及び土地利用区分	自然度	対象事業実施区域				調査地域			
				現況		施工後		現況		施工後	
				面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
1	常緑広葉樹林	スダジータブノキ群落	8	-	-	-	-	0.25	0.2	0.25	0.2
2	落葉広葉樹林	ムクノキエノキ群落	7	0.30	0.7	0.00	0.0	2.81	2.1	2.51	1.8
3		イヌシデーコナラ群落	7	-	-	-	-	0.27	0.2	0.27	0.2
4		ヌルデアアカメガシワ群落	6	0.25	0.6	0.00	0.0	0.66	0.5	0.41	0.3
5		ヤナギ低木群落	9	-	-	-	-	0.14	0.1	0.14	0.1
6	竹、ササ群落	竹林	3	0.03	0.1	0.00	0.0	1.14	0.8	1.12	0.8
7		アズマネザサ群落	5	0.05	0.1	0.00	0.0	0.36	0.3	0.31	0.2
8	湿性草本群落	ヨシ群落	5	1.06	2.5	0.00	0.0	1.59	1.2	0.53	0.4
9		ヒメガマ群落	5	0.07	0.2	0.00	0.0	1.88	1.4	1.81	1.3
10		マコモ群落	5	0.07	0.2	0.00	0.0	0.07	0.1	0.00	0.0
11		湿性低茎草本群落	4	4.06	9.6	0.00	0.0	6.69	4.9	2.63	1.9
12	沈水植物群落	ヤナギモ群落	10	-	-	-	-	0.03	0.0	0.03	0.0
13	乾性草本群落	オギ群落	5	1.67	3.9	0.00	0.0	4.25	3.1	2.58	1.9
14		チガヤ群落	4	0.68	1.6	0.00	0.0	0.98	0.7	0.30	0.2
15		乾性低茎草本群落	4	3.14	7.4	0.00	0.0	6.42	4.7	3.28	2.4
16		クズーカナムグラ群落	4	2.67	6.3	0.00	0.0	4.31	3.2	1.64	1.2
17	外来草本群落	外来草本群落	2	5.66	13.4	0.00	0.0	10.43	7.7	4.77	3.5
18	その他土地利用	植栽樹群	3	0.55	1.3	0.00	0.0	2.12	1.6	1.57	1.2
19		果樹園	3	0.15	0.3	0.00	0.0	0.33	0.2	0.18	0.1
20		水田雑草群落	2	0.72	1.7	0.00	0.0	0.87	0.6	0.15	0.1
21		畑地雑草群落	2	4.99	11.8	0.00	0.0	32.70	24.0	27.71	20.3
22		公園、グラウンド	2	0.04	0.1	1.33	3.1	1.46	1.1	2.75	2.0
23		緑の多い住宅地	2	1.02	2.4	0.00	0.0	10.54	7.7	9.52	7.0
24		市街地等	1	14.11	33.3	35.02	82.8	44.27	32.5	65.18	47.9
25		開放水域	開放水域	-	1.02	2.4	5.95	14.1	1.61	1.2	6.54
-	合計			42.30	100.0	42.30	100.0	136.17	100.0	136.17	100.0

注) 面積及び比率は、四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。

④ 植生自然度の変化

現況と供用時の植生自然度を対象事業実施区域及び調査地域別に整理した結果を表 5-2-5-14 に示す。

現況では対象実施区域は植生自然度 1～5 までの植生にほぼ占められており、二次草原、外来種草原、市街地等で約 98%を占めている。供用時は、二次草原や外来種草原、農耕地等が消失し、対象事業実施区域の大部分が植生自然度 1 又は 2 の植生となる。

調査地域全体でみると、自然度の高い自然草原、自然林、二次林（自然林に近いもの）は周辺区域にのみ分布していること、対象事業実施区域の比較的自然度の高い二次林、植林地、二次草原などの面積は大きく減少するが、周辺区域にあるものはそのまま残存することから、本事業が植生自然度に与える影響は少ないと考えられる。

表 5-2-5-14 植生自然度

植生自然度			対象事業実施区域				調査地域			
			現況		供用時		現況		供用時	
自然度	区分内容	区分基準	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
10	自然草原	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区	-	-	0.00	0.0	0.03	0.05 未満	0.03	0.05 未満
9	自然林	エゾマツ・トドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区	-	-	0.00	0.0	0.14	0.1	0.14	0.1
8	二次林 (自然林に近いもの)	ブナ・ミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区	-	-	0.00	0.0	0.25	0.2	0.25	0.2
7	二次林	クリ・ミズナラ群落、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区	0.31	0.7	0.00	0.0	3.08	2.3	2.77	2.03
6	植林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林	0.25	0.6	0.00	0.0	0.66	0.5	0.41	0.30
5	二次草原 (背の高い草原)	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種が多い草原	2.91	6.9	0.00	0.0	8.15	6.0	5.24	3.85
4	二次草原 (背の低い草原)	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落。	10.55	24.9	0.00	0.0	18.40	13.5	7.85	5.76
3	外来種植林 農耕地 (樹園地)	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	0.72	1.7	0.00	0.0	3.60	2.6	2.88	2.11
2	外来種草原 農耕地 (水田・畑)	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地	12.43	29.4	1.33	3.1	55.99	41.1	44.89	32.97
1	市街地等	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区	14.11	33.3	35.02	82.8	44.27	32.5	65.18	47.87
w	開放水域		1.02	2.4	5.95	14.1	1.61	1.2	6.54	4.80
合計			42.30	100.0	42.30	100.0	136.17	100.0	136.17	100.0

注) 面積及び比率は、四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。

(7) 環境保全措置

【施工時】

- ・施工時の濁水は沈砂池や仮設調整池等で十分に沈殿させたあとに、上澄みを排水する。また、セメント系固化材による地盤改良を行う場合は、濁水の pH 調整等を適切に行い、河川への汚染防止を図る。
- ・事業の影響があると考えられる 6 種（オオオミクリ（ミクリ属の一種を含む）、ヤブサンザシ、ハシバミ、タコノアシ、ウスゲチョウジタデ、カワヂシャ）を保全対象種として移植等の措置を実施する。
- ・オオオミクリ（ミクリ属の一種を含む）、ヤブサンザシ、ハシバミについては対象事業実施区域の生育個体の一部又はすべてを生育適地に移植し、タコノアシ、ウスゲチョウジタデ、カワヂシャについては生育地の表土を生育適地に移植する。保全対象種の移植後はこれらの種の定着状況を確認し、一定の期間は経過観察を行う。保全対象種と環境保全措置を表 5-2-5-15 に示す。

表 5-2-5-15 保全対象種と環境保全措置

種名	生育環境	環境保全措置
オオミクリ (ミクリ属の一種を含む)	小沼、ため池、河川	対象事業実施区域の生育個体の一部を調整池や流れの緩やかな河川、湿地等の生育適地に移植する。
ヤブサンザシ	落葉樹林、林縁	対象事業実施区域の生育個体すべてを周辺区域にある谷津斜面林の林縁部等の生育適地に移植する。
ハシバミ	水田周辺の林縁	対象事業実施区域の生育個体すべてを周辺区域にある谷津斜面林の林縁部等の生育適地に移植する。
タコノアシ	休耕田、湿地	生育地の表土を工事前にトン袋に保管し、湿地等の生育適地に移植する。
ウスゲチョウジタデ	休耕田、湿地	生育地の表土を工事前にトン袋に保管し、湿地等の生育適地に移植する。
カワヂシャ	河川、湿地、水路	生育地の表土を工事前にトン袋に保管し、湿地等の生育適地に移植する。

【供用時】

- ・公園等に植樹する樹種は、船橋市の公園緑地課と協議をした上で、在来植物を中心とした種の選定を検討して緑地を造成する。
- ・調整池内の緑化が可能な場所には、多孔質素材等による法面や擁壁の設置を検討する。
- ・周辺区域の調整池や草地を湿地等の水辺環境の代替地としての活用を検討する。

### 3. 評価

#### (1) 評価方法

以下の項目について、植物への影響が事業者により実行可能な範囲内で出来る限り回避され、又は低減されているかどうかを検証することにより評価した。また、環境保全措置の検討を行ったときは、その実施内容及びその効果について明らかにした。

- ・植物相の変化
- ・重要な種及び地域の特性を把握する上で注目される種の生育状況の変化
- ・植物群落の変化
- ・植物自然度の変化

#### (2) 評価結果

##### ① 植物相の変化

対象事業実施区域の大部分は市街地となるが、海老川や念田川等の河川は現状のまま維持される。また、調整池や公園内では緑地の保全、創出に配慮した環境保全措置を実施すること、周辺区域の斜面林等は現況のまま残存することから、植物の生育に与える影響をできるかぎり低減できるものと考えられる。

以上のことから、植物相に与える影響については、事業者の実行可能な範囲内において回避又は低減が図られているものと評価する。

##### ② 重要な種及び地域の特性を把握する上で注目される種の生育状況の変化

保全対象種とした 6 種の重要な種について持続可能な生育適地への移植や表土の撒きだし等の環境保全措置を実施し、実施後も定着まで経過観察及び生育地の保全をすることで、重要な種に与える事業の影響を低減できるものと考えられる。

以上のことから、重要な種に与える影響については、事業者の実行可能な範囲内において回避又は低減が図られているものと評価する。

##### ③ 植物群落の変化

対象事業実施区域の大部分は市街地となるが、海老川や念田川周辺の樹林や草地は水辺環境と一帯となった植生として現状のまま維持される。また、調整池周辺や公園に緑地を創出する等の環境保全措置を実施すること、周辺区域の斜面林等は現況のまま残存することから、植物群落に与える影響をできるかぎり低減できるものと考えられる。

以上のことから、植物群落に与える影響については、事業者の実行可能な範囲内において回避又は低減が図られているものと評価する。

##### ④ 植物自然度の変化

対象事業実施区域は現況の自然度が全体的に低い地域であるが、海老川や念田川等の自然度が比較的高い水辺環境は現状のまま維持される。また、周辺区域の斜面林等は現状のまま現存することから、植生自然度に与える影響をできるかぎり低減できるものと考えられる。

以上のことから、植生自然度に与える影響については、事業者の実行可能な範囲内において回避又は低減が図られているものと評価する。

